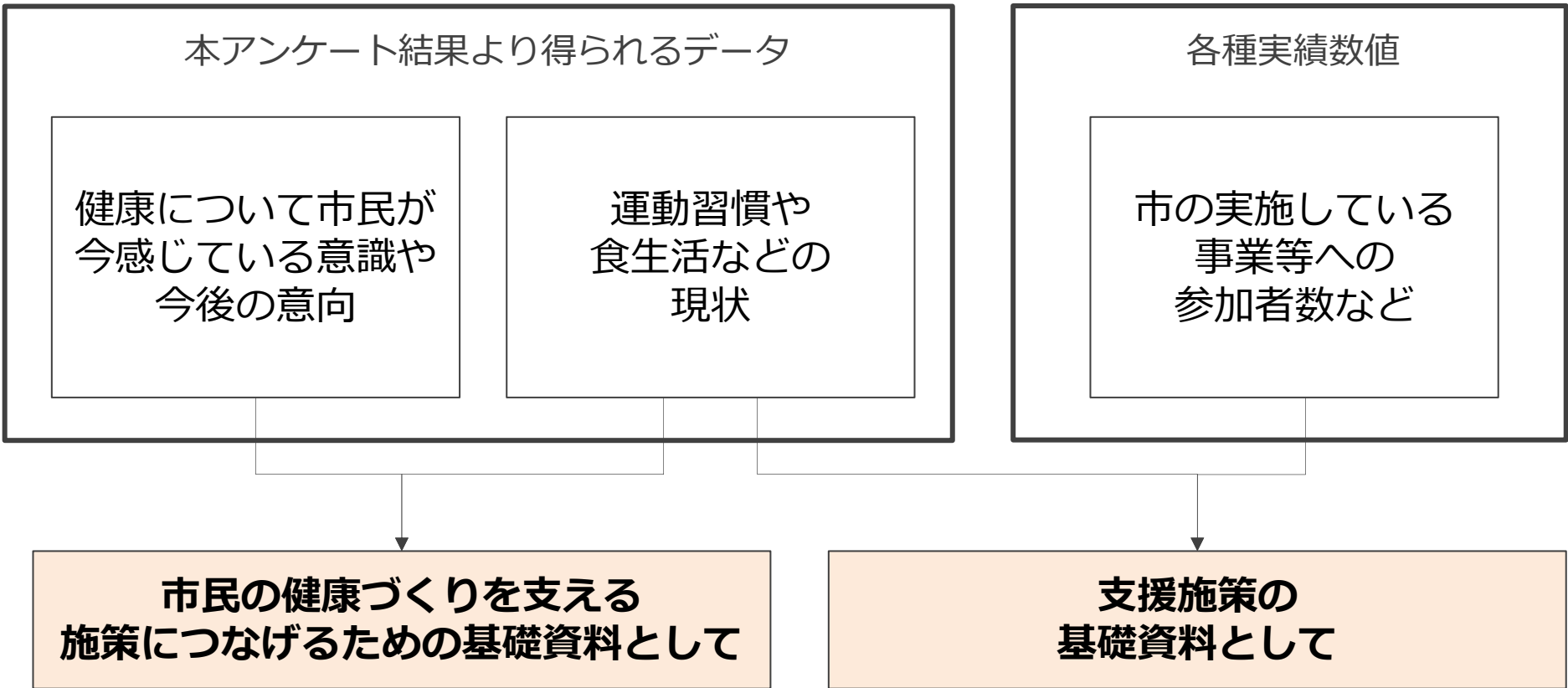


アンケート調査等から見える現状と課題

(市民の健康づくりに関するアンケート調査・妊娠届出書、乳幼児健診票集計報告より)

計画策定にあたってのアンケート調査の位置づけ

市民の健康づくりに関わる生活習慣の現状把握とともに、各種実績数値との連動を図り、実態をより客観的に示し、これからの市民の健康づくりと暮らしを支える方向性を検討するためのものである。



調査の概要

【1】武蔵野市 市民の健康づくりに関するアンケート調査

- 18歳以上の市民を対象に、2,000人を無作為抽出した郵送調査
- 平成28年11月に実施
- 回収数802通 回収率40.1%

【2】武蔵野市 妊娠届出書集計

- 平成28年4月～12月の妊娠届時に提出した妊娠届票を入力・集計
- 回収数1,086件

【3】武蔵野市 乳幼児健診票集計

- 平成28年4月～11月に3～4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診を受診した乳幼児の保護者を対象にした健診票を入力・集計
- 回収数：2,359件
（3～4か月児：813件、1歳6か月児：803件、3歳児：743件）

調査結果の分析

(1) 経年変化で見えること

(平成20年、平成22年実施の同調査との比較)

(2) 国や都の調査結果との比較で見えること

国：『国民健康・栄養調査報告』や『食育の推進に関するアンケート』


都：『都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査』

『健康と保健医療に関する世論調査』

『食生活と食育に関する世論調査』などを参照

(3) 分析軸を設定して見えること

(性・年齢層をベースに、健康に関する差異が見出せそうな、
属性・行動等に関する分析軸による設定)

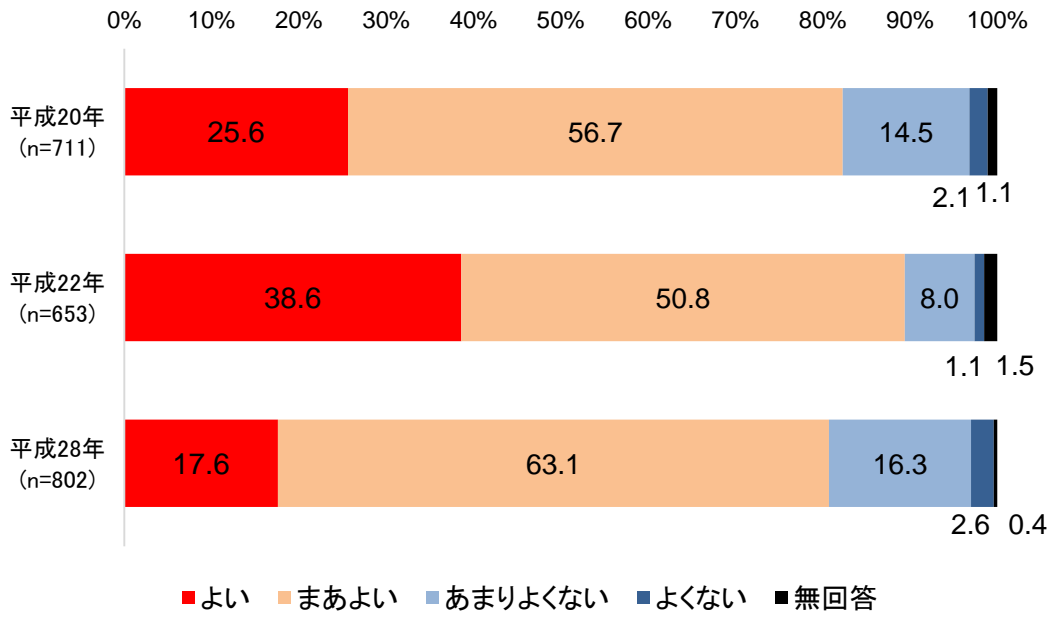


これらを考慮しながら、調査結果（数値）から読み取れる
武蔵野市民の健康について整理した

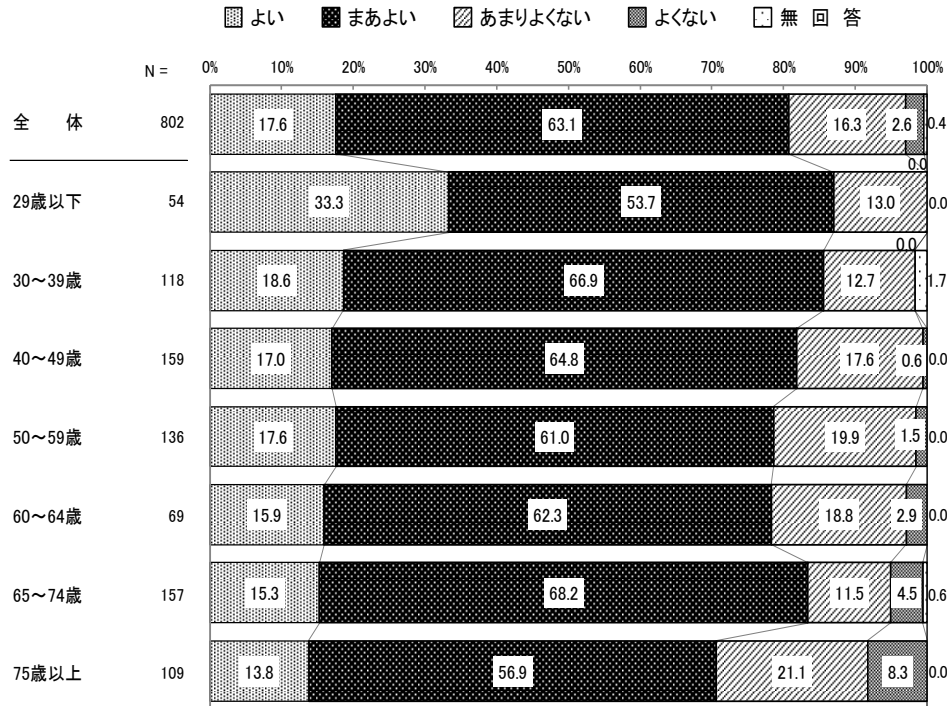
1-1 市民の健康状態と健康への取り組み

- 健康状態が「よい」と回答した人の割合が、過去2回の調査と比較して最も低く、逆に「よくない」と回答した人の割合が最も高い。東京都調査と比べると、同様な傾向が見られる。
- 健康状態は、年齢が上がるにつれ「よくない」との回答が多い。

【現在の健康状態】



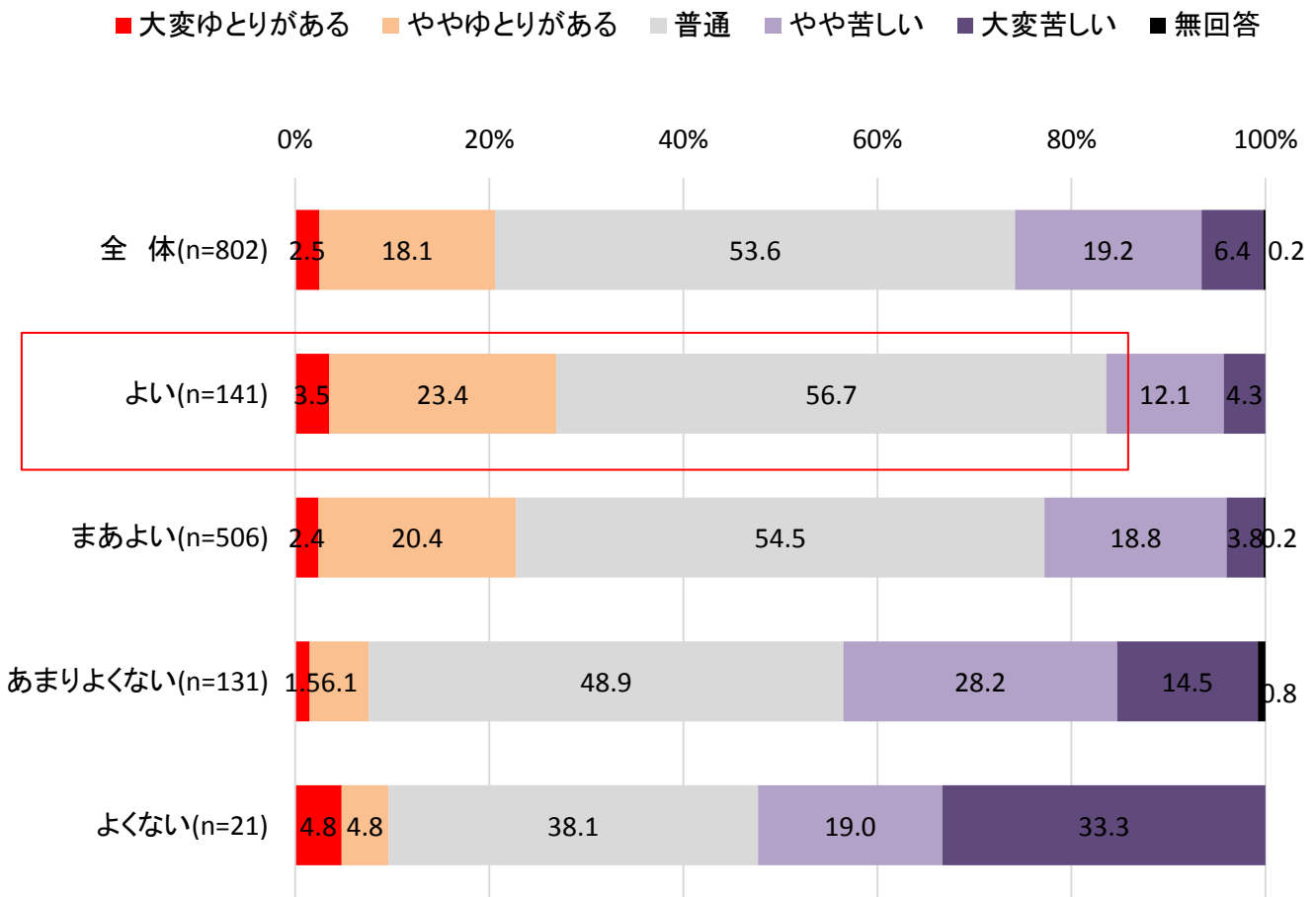
問6 現在の健康状態[%]



【参考】
 東京都生活文化局の「健康と保健医療に関する世論調査」(平成29年3月)では、「自分の健康状態をどのように感じるか」という問いには「まあよい」が53.4%(武蔵野市63.1%)、「よい」が27.9%(同17.6%)でこの2項目を合わせた「よい」が81.3%(同80.7%)となっている。一方、「あまりよくない」が16.0%(同16.3%)、「よくない」が3.0%(同2.6%)で、「よくない」の合計は19.0%(18.9%)である。

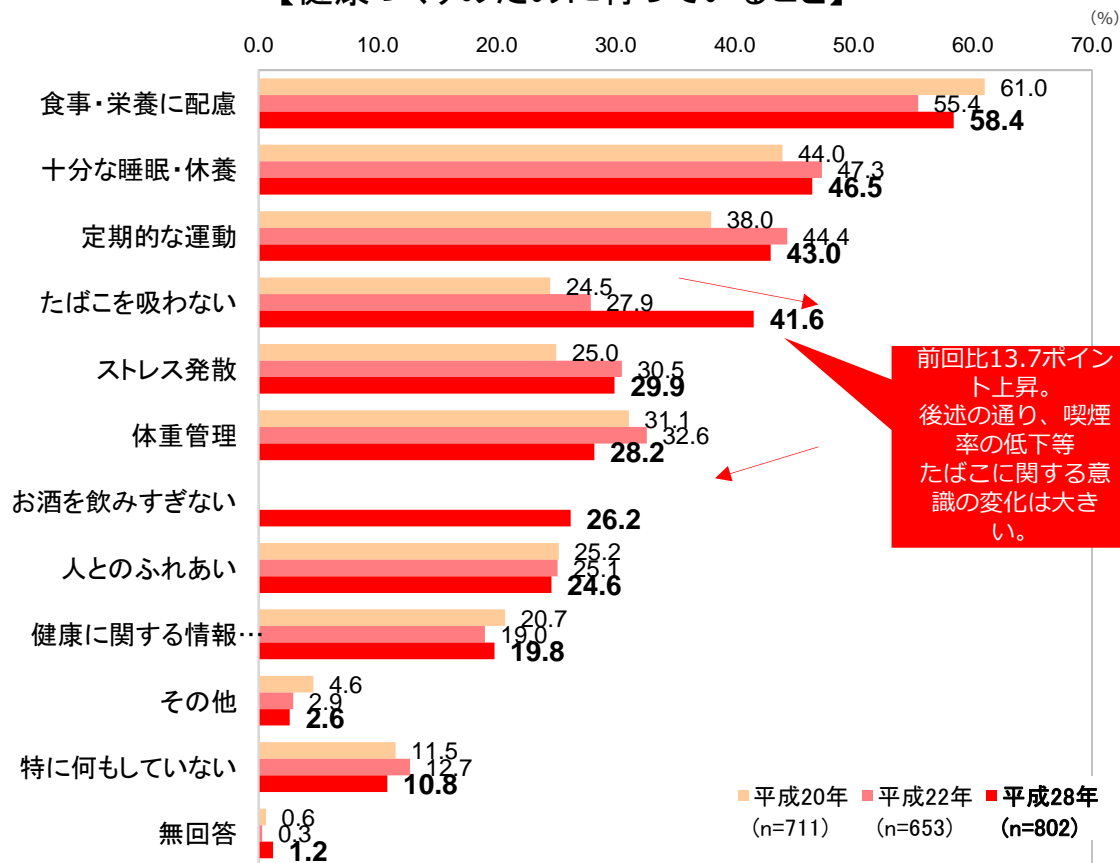
●健康状態がよいと回答した人のうち、経済的状況にゆとりがある※と回答した人は26.9%、普通と回答した人を含めると83.6%と8割を超えており、全体よりも高い。 (※「大変ゆとりがある」と「ややゆとりがある」の計)

【現在の暮らしの経済的状況】



●健康づくりのために行っていることは、食事・栄養に配慮、十分な睡眠・休養、定期的な運動の順。過去調査と比べると「たばこを吸わない」が大きく上昇している。健康状態が「よい」と回答した人は、健康づくりに対し取り組んでいる割合が高い。

【健康づくりのために行っていること】

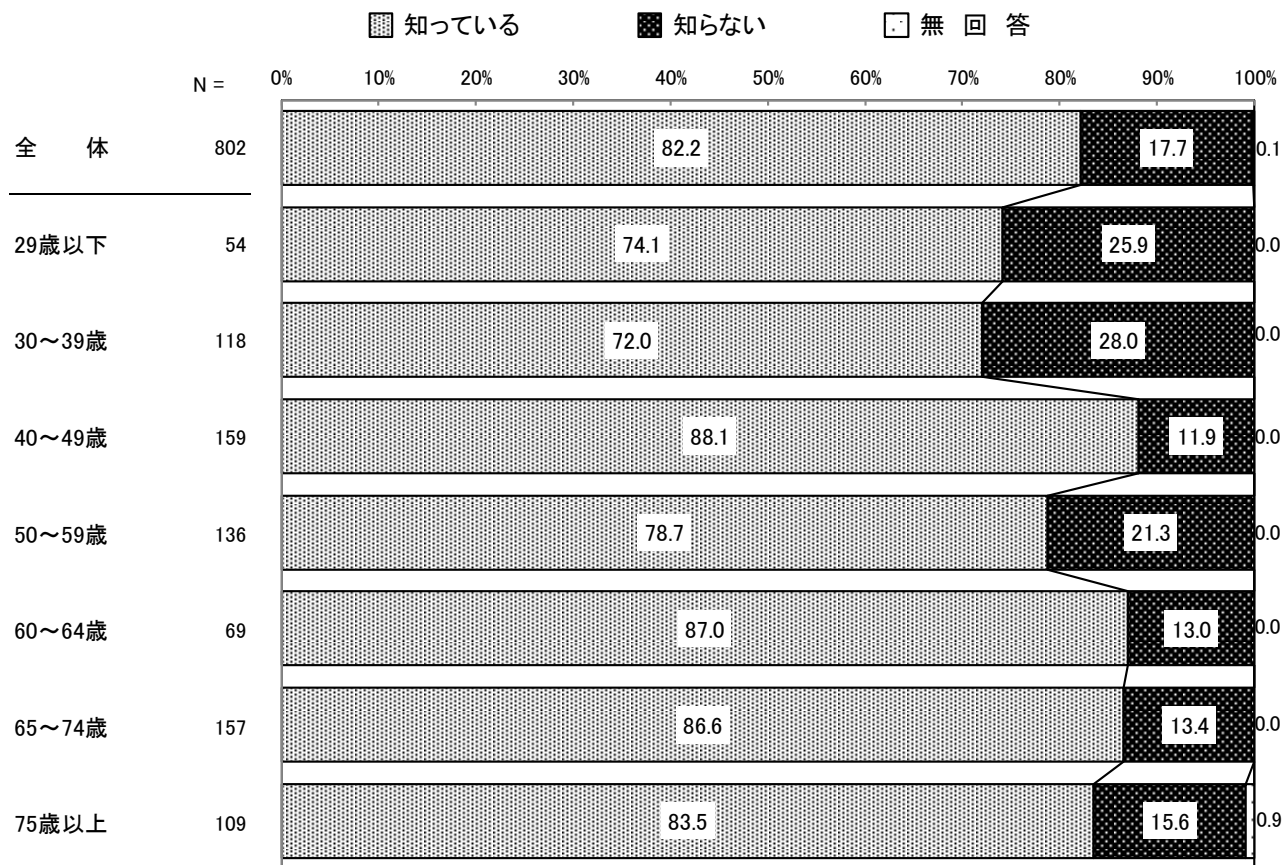


(健康状態)

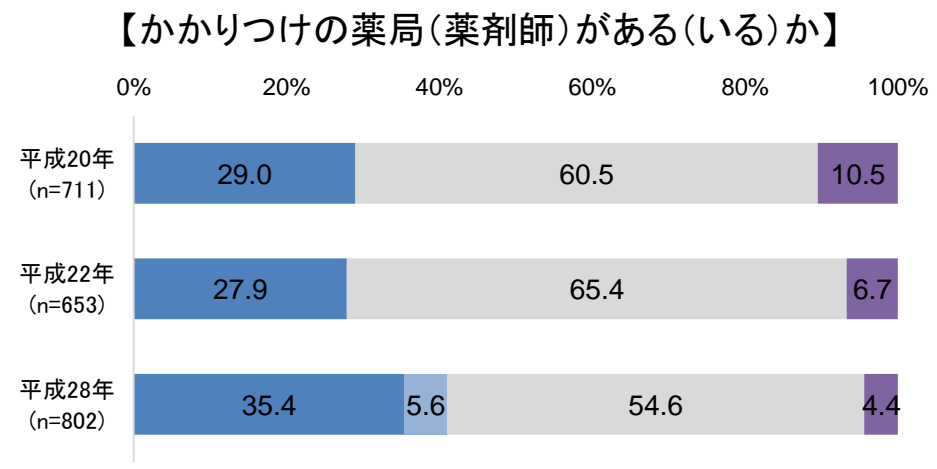
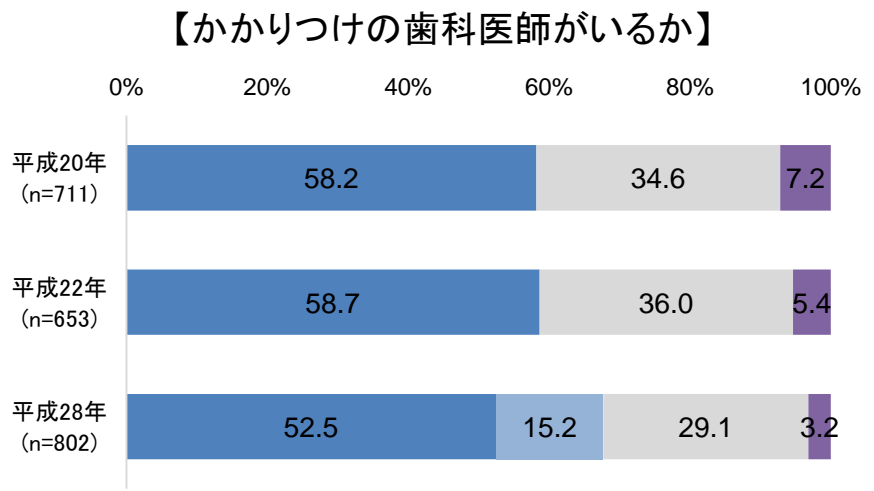
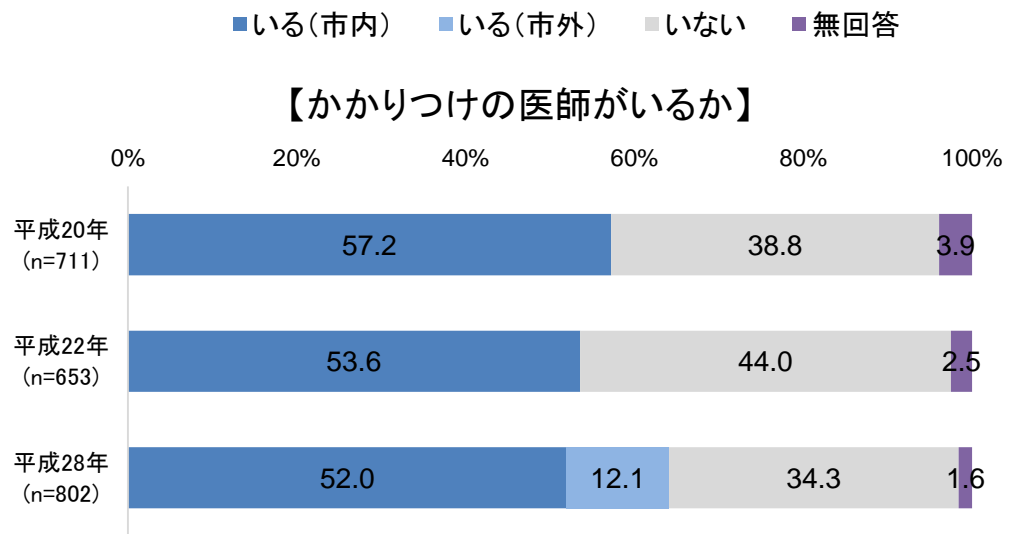
	全体	よい	まあよい	あまりよくない	よくない
食事・栄養に配慮	58.4	67.4	58.7	48.1	52.4
十分な睡眠・休養	46.5	50.4	49.2	35.9	23.8
定期的な運動	43.0	54.6	44.1	31.3	14.3
たばこを吸わない	41.6	46.8	41.5	38.9	28.6
ストレス発散	29.9	40.4	31.0	16.8	9.5
体重管理	28.2	36.9	27.5	24.4	9.5
お酒を飲みすぎない	26.2	29.8	27.1	22.1	9.5
人とのふれあい	24.6	32.6	24.3	19.1	14.3
健康に関する情報入手	19.8	29.8	17.6	19.1	14.3
特に何もしていない	10.8	6.4	9.7	18.3	19.0

● 体重管理について、標準体重の認知度は8割を超えている。特に40歳代が高く88.1%である。対して、30歳代は72.0%である。

【自身の標準体重について】



● 「かかりつけ」のいる割合は上昇傾向。歯科医師、医師、薬剤師の順である。



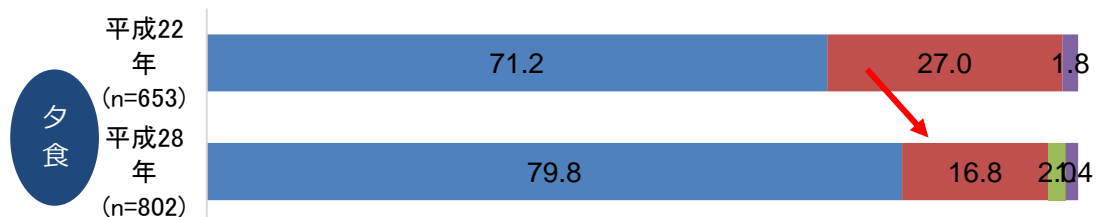
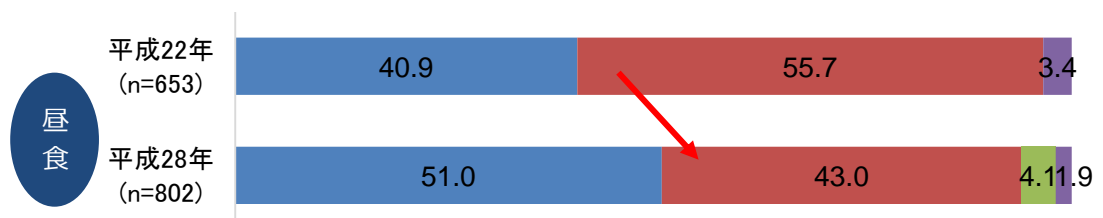
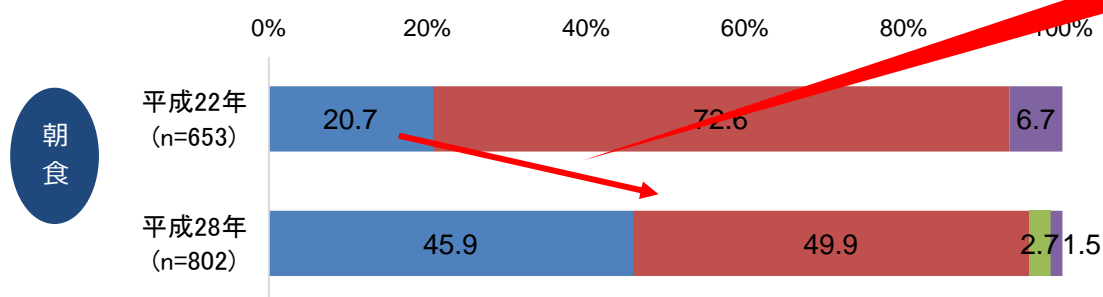


1 - 2 食生活

- 食事が「揃っている」人の割合は増加しており、特に朝食は25ポイント以上上昇している。
- 朝食を摂ることと健康状態に相関関係がある。

【主食、主菜、副菜が揃った食事かどうか】

特に朝食で「ほぼ揃っている」という回答割合が伸びている。



■ ほぼ揃っている ■ 揃っていない ■ わからない ■ 無回答

【朝食を摂ることと健康状態の関係】

朝食を食べる頻度

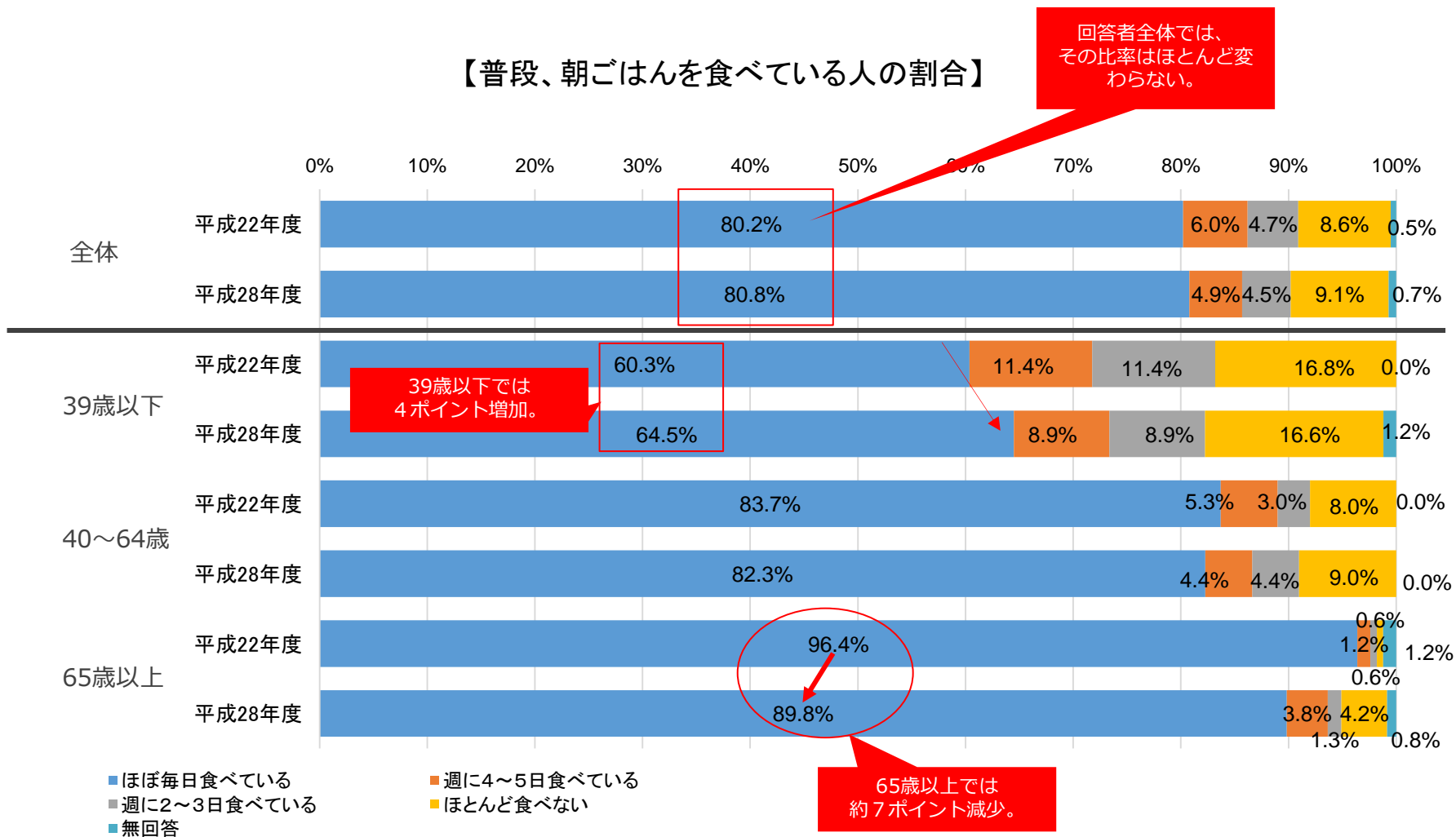
健康状態

	ほぼ毎日食べている	週に4~5日食べている	週に2~3日食べている	ほとんど食べない	無回答
全体	80.8%	4.9%	4.5%	9.1%	0.7%
よい	82.7%	4.8%	3.9%	8.0%	0.6%
よくない	73.0%	5.3%	7.2%	13.2%	1.3%

※「よい」は、よい+まあよいの合算
「よくない」は、あまりよくない+よくないの合算

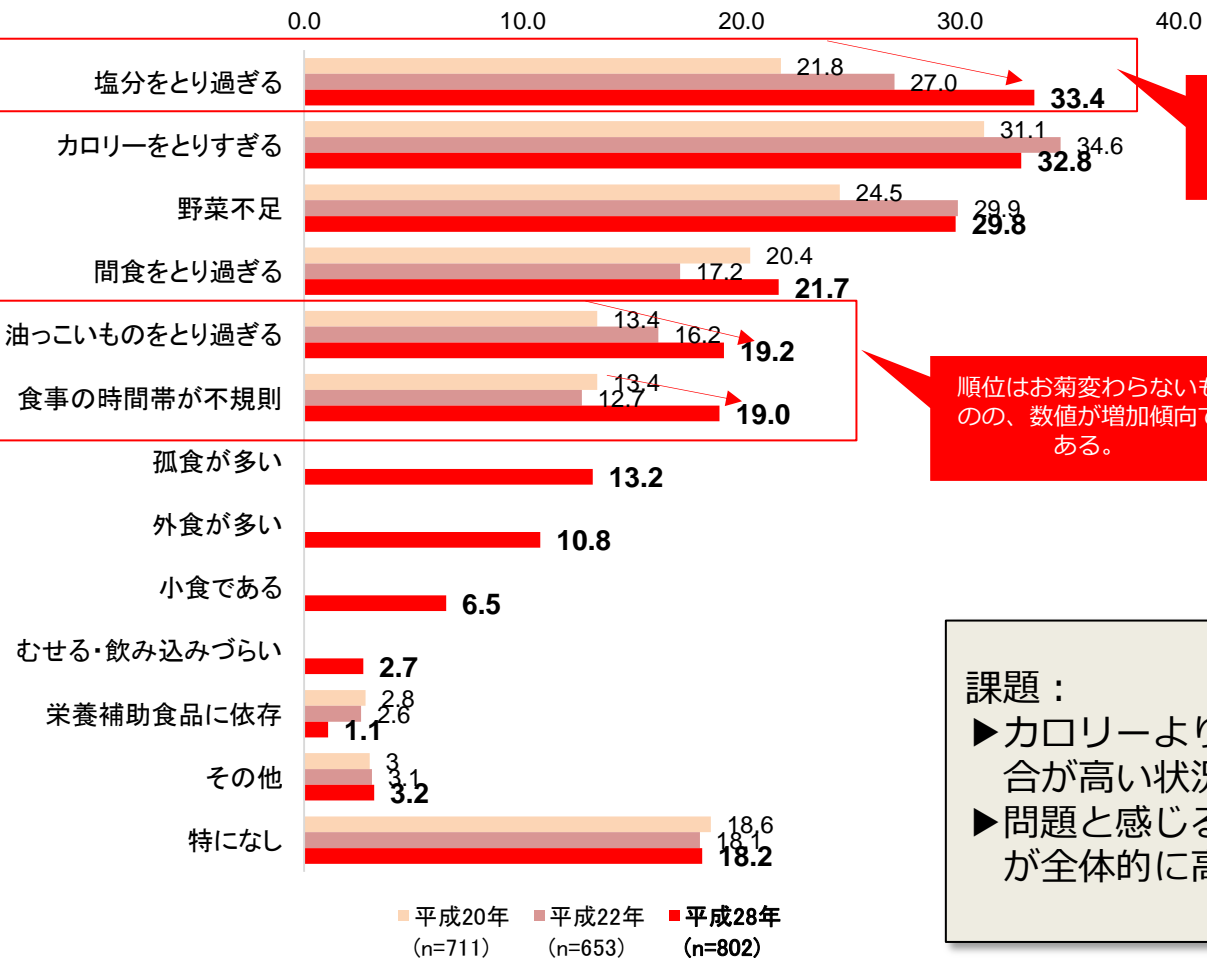
●朝ごはんを食べている人は前回調査から変わらずほぼ一定であるが、39歳以下で「ほぼ毎日食べている」割合が約4ポイント増加しているのに対し、65歳以上では約7ポイント減少。

【普段、朝ごはんを食べている人の割合】



● 食生活の問題として感じていることで近年増加しているのが、「塩分のとり過ぎ」「油っこいものを取り過ぎる」「食事の時間帯が不規則」である。

【あなたの食生活で問題と感ずること】



増加傾向が続いており、今回はカロリーを抑えてトップ

順位はお菊変わらないものの、数値が増加傾向である。

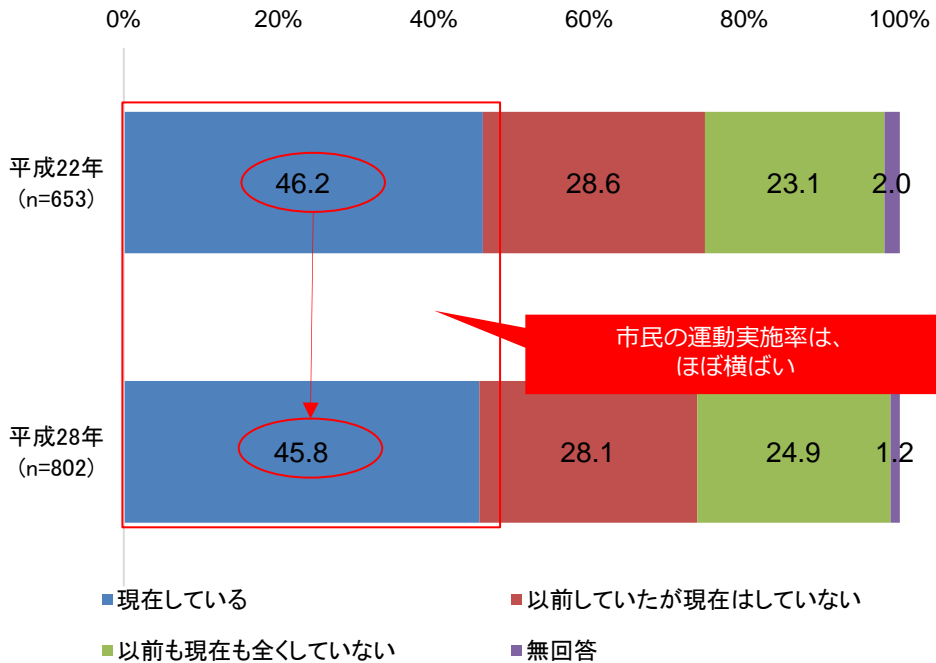
課題：
 ▶ カロリーよりも塩分を問題と感じている人の割合が高い状況になっていること
 ▶ 問題と感ずる人の割合が増えている（回答数値が全体的に高くなっている）こと



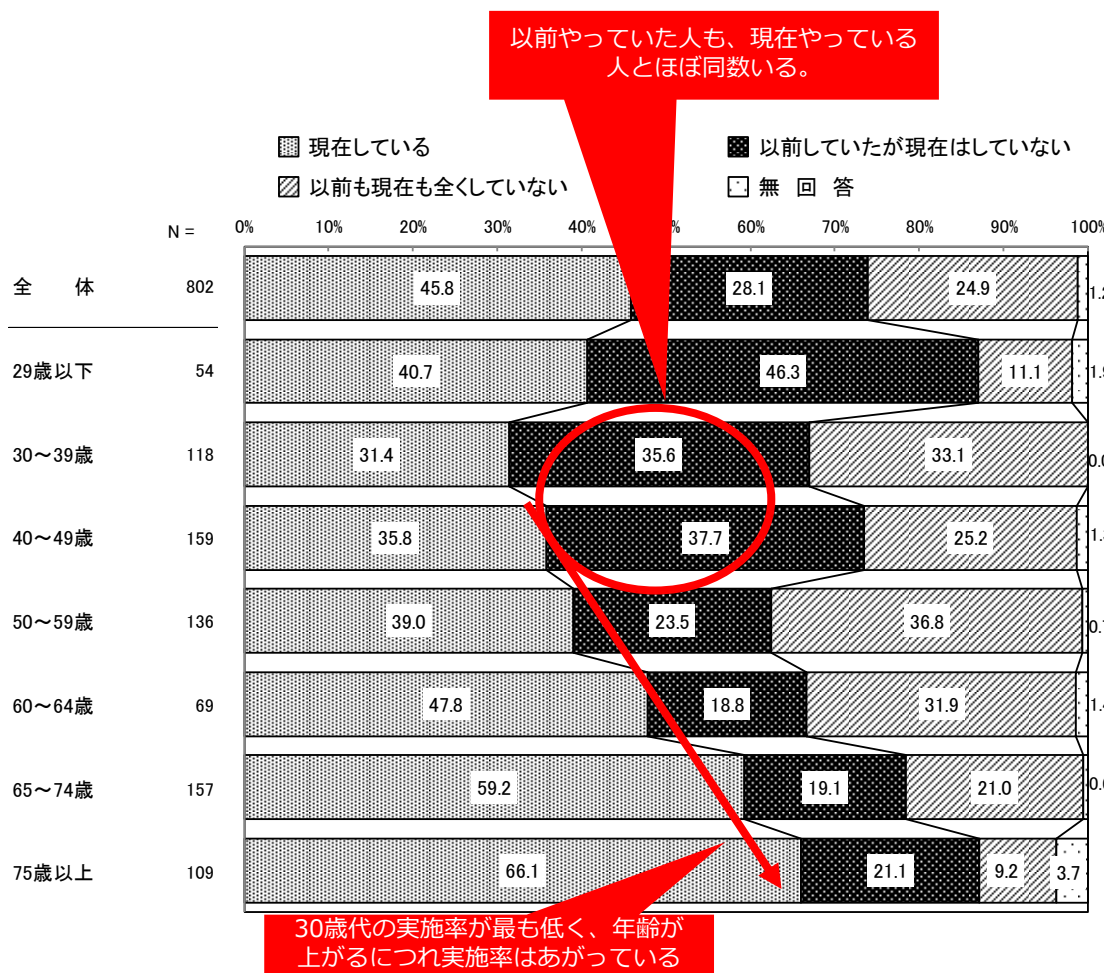
1 - 3 運動

●市民全体の運動実施率は前回調査からほぼ横ばい。年齢別では30歳代が最も低く、逆に高齢者の方が運動をしている人の割合が高い。

【30分以上の運動を週1回以上しているか】



市民の運動実施率は、ほぼ横ばい



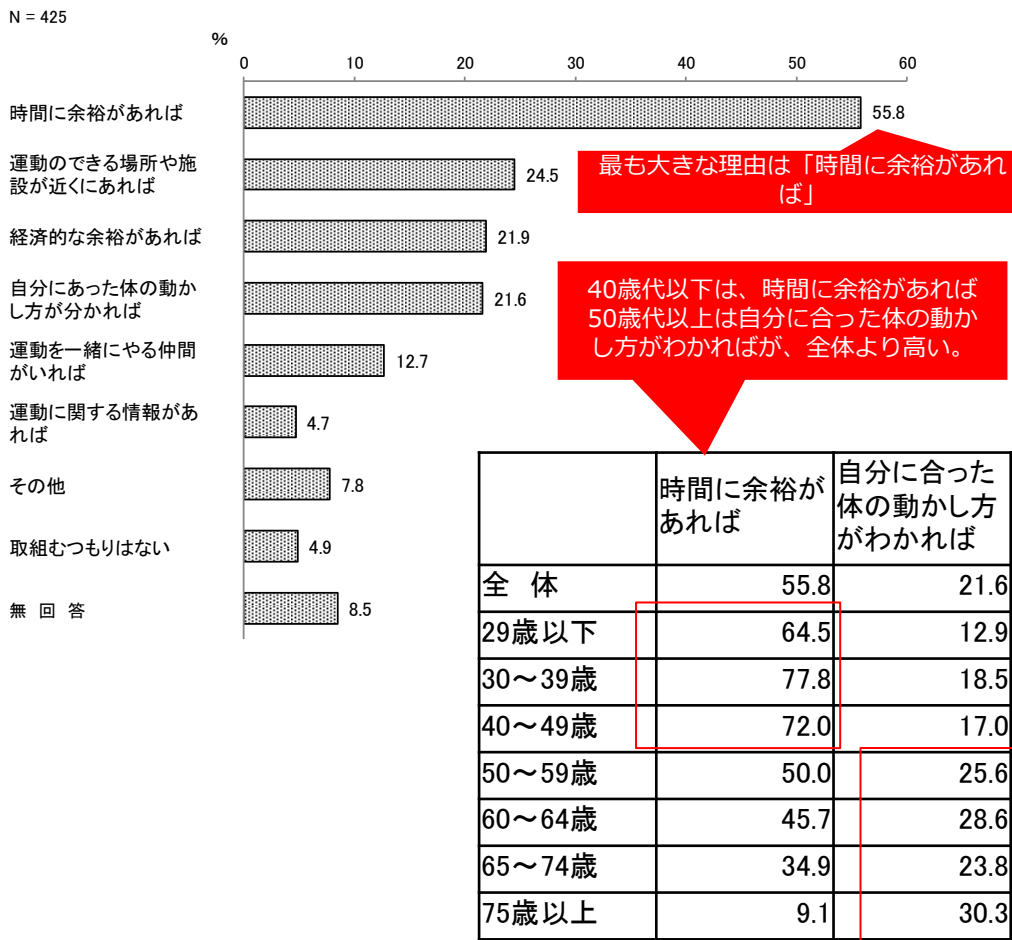
以前やっていた人も、現在やっている人とほぼ同数いる。

30歳代の実施率が最も低く、年齢が上がるにつれ実施率はあがっている

【参考】
厚生労働省の「平成27年国民健康・栄養調査」(平成29年3月発表)では、運動習慣の有無を聞いている。運動習慣のある人の割合は、男性37.8%、女性27.3%である。
(※1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している人の割合のため、単純な比較はできないが、武蔵野市の方が値は高い。)

●運動に取り組まない最も大きな障壁は「時間がない」こと。運動場所は、民間施設の利用割合が公立施設よりも高い。

【どうすれば運動に取り組むことができるか】




【運動場所について】

公共施設より民間施設の利用率が高い

	民間施設 (スポーツ ジム等)	運動が できる公 共の施 設	自宅・職 場・そ の周辺	その他
全体 (n=367)	32.7	> 22.1	43.6	12.3
29歳以下 (n=22)	13.6	18.2	59.1	18.2
30～39歳 (n=37)	43.2	18.9	40.5	8.1
40～49歳 (n=57)	38.6	24.6	43.9	7
50～59歳 (n=53)	43.4	17.0	37.7	11.3
60～64歳 (n=33)	39.4	21.2	39.4	15.2
65～74歳 (n=93)	32.3	18.3	47.3	10.8
75歳以上 (n=72)	18.1	31.9	41.7	18.1

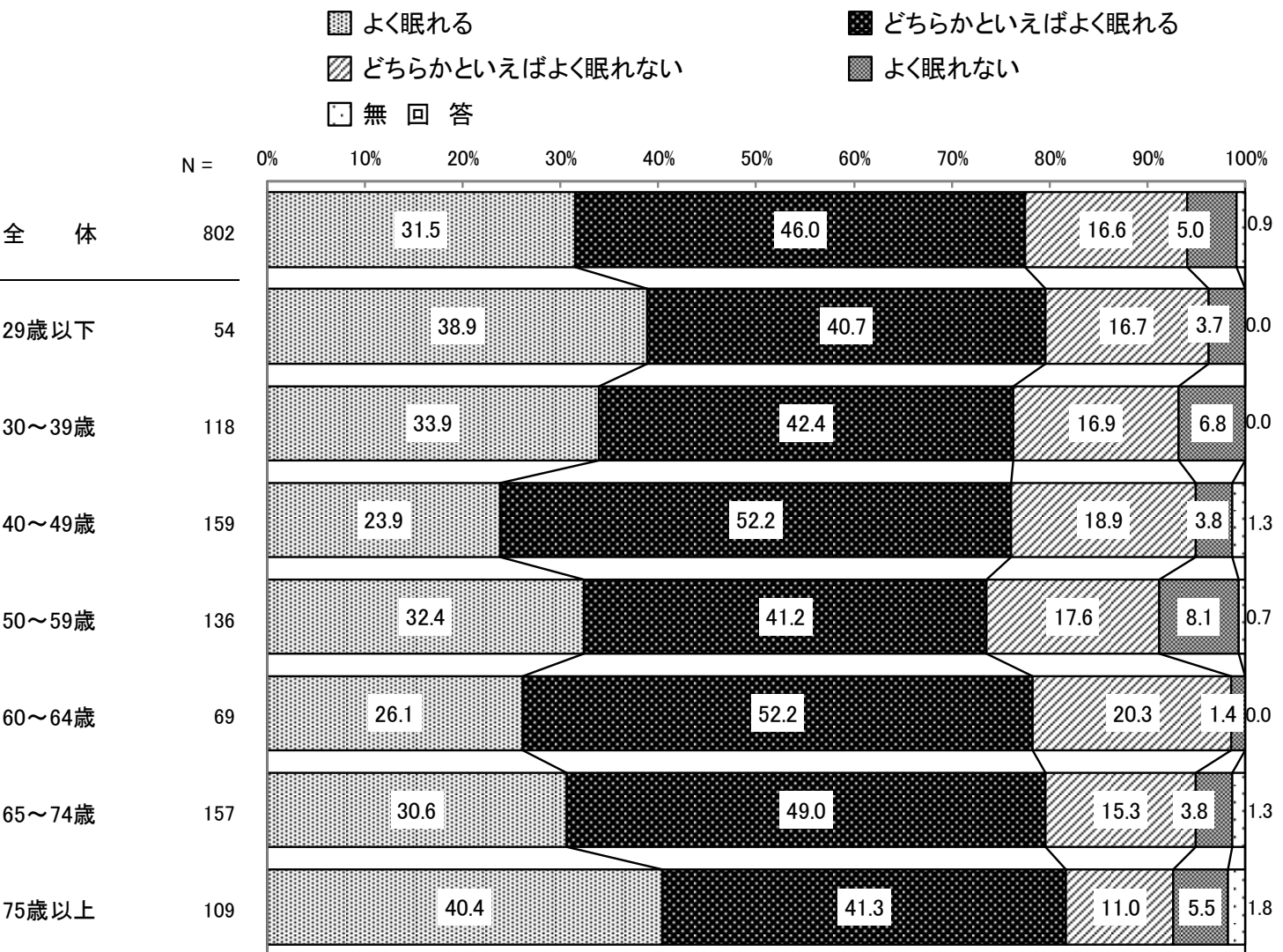
●厚生労働省の「平成27年国民健康・栄養調査」(平成29年3月発表)では、「運動ができる場所」として、「地域センター、公民館など」を答える人の割合が高い(男性74.9%、女性76.1%)。



1 - 4 休養・心の健康

●「どちらかといえばよく眠れない+眠れない」という回答がどの年齢層でもほぼ2割程度いる。（類似の東京都調査より数値が低い。）

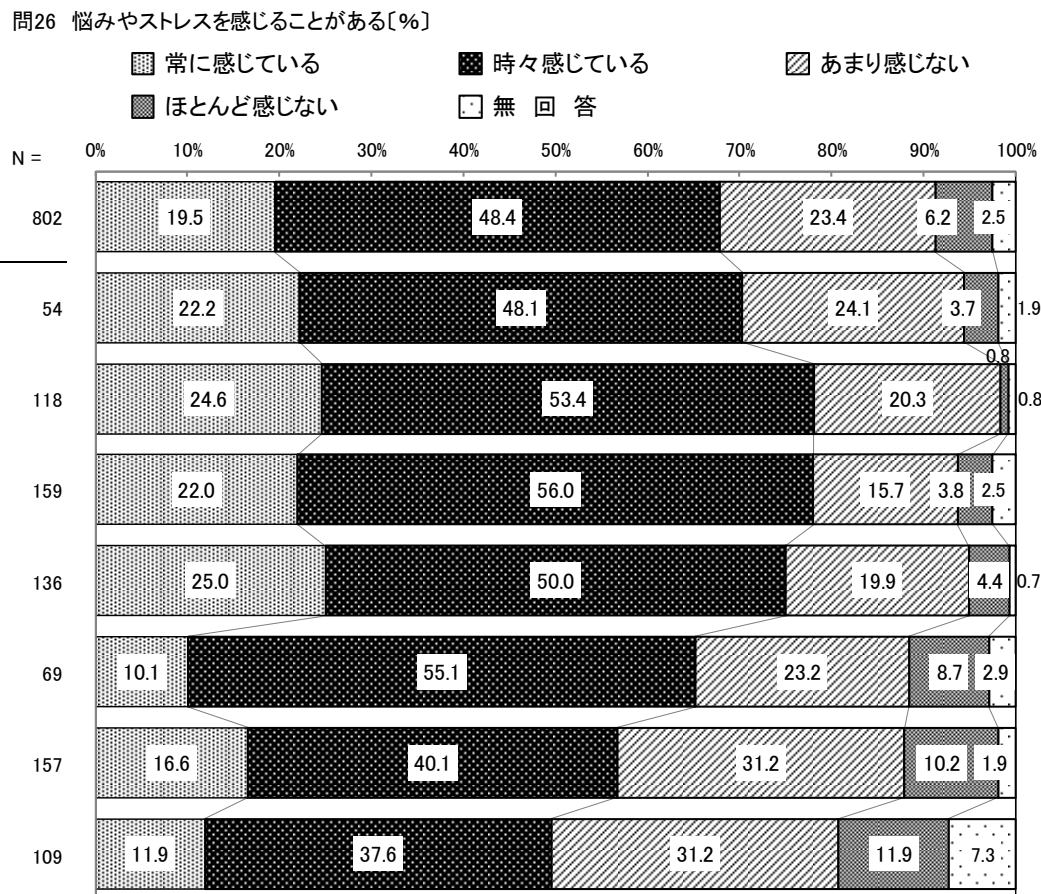
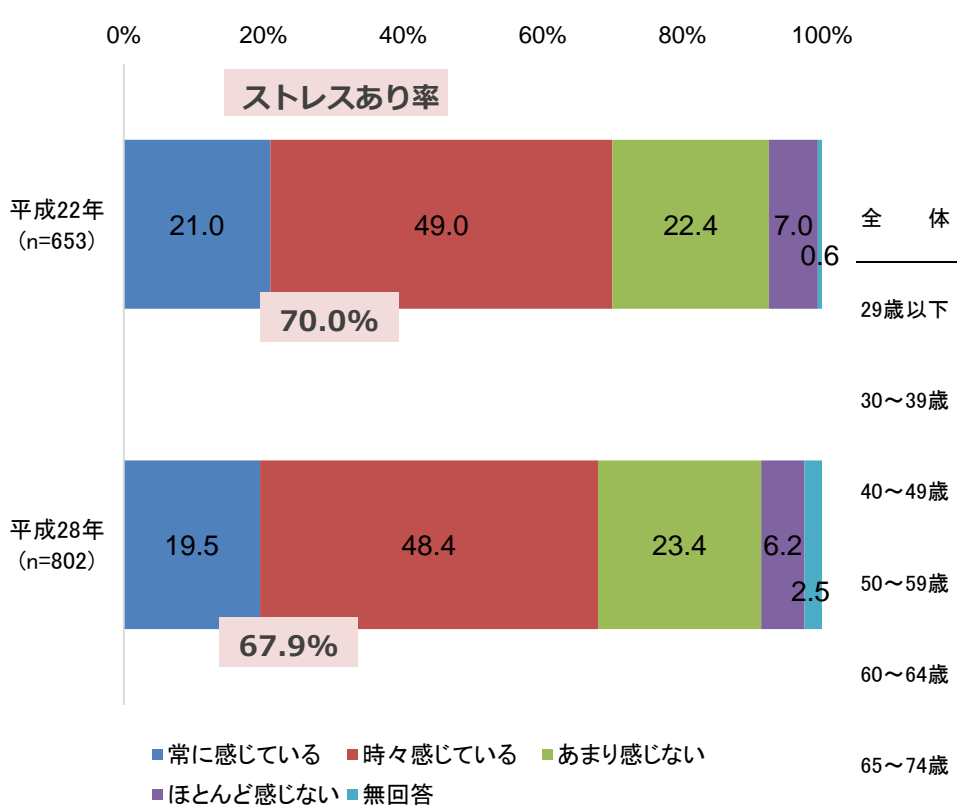
【ここ1か月の睡眠状態】



【参考】
 東京都生活文化局の「健康と保健医療に関する世論調査」(平成29年3月)では、「睡眠の充足感」について質問している。
 「十分足りている」が25.7%、「ほぼ足りている」が37.9%、「やや不足している」が32.6%、「まったく不足している」が3.8%となっている。

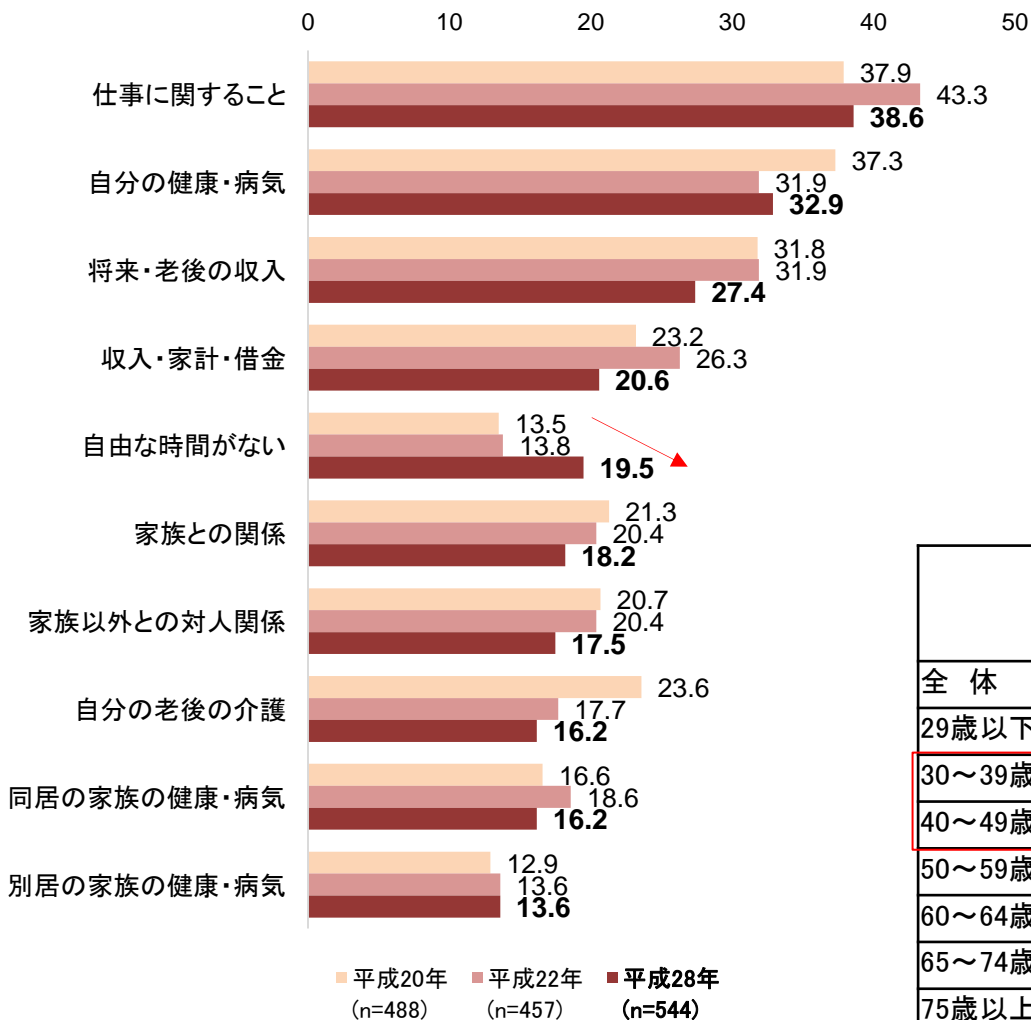
● ストレスを感じている人の割合は約7割で、前回調査と比べほぼ同じ割合である。

【悩みやストレスを感じることもある】



●全体では、ストレスの原因で「自由な時間がない」を原因にあげた人の割合がこれまでより増加しているのが特徴。働き方にかかわらず、仕事に関することの割合は高い。

【ストレスの原因(主なもの)】



【ストレスの原因(働いている人の順位)】

	自由業	公務員・会社員	アルバイト・派遣等(非常勤)
1位	将来・老後の収入	仕事に関すること	自分の健康・病気
2位	仕事に関すること	将来・老後の収入	将来・老後の収入
3位	自分の健康・病気	家族以外との対人関係	仕事に関すること
4位	収入・家計・借金	自由な時間がない	収入・家計・借金(経済的問題)

【ストレスの原因(主なもの:年代別)】

	仕事に関すること	自分の健康・病気	将来・老後の収入	収入・家計・借金	自由な時間がない
全体	38.6	32.9	27.4	20.6	19.5
29歳以下	52.6	2.6	26.3	13.2	23.7
30~39歳	57.6	19.6	22.8	21.7	31.5
40~49歳	46.0	27.4	32.3	32.3	27.4
50~59歳	43.1	35.3	34.3	24.5	15.7
60~64歳	33.3	33.3	28.9	8.9	11.1
65~74歳	18.0	42.7	21.3	14.6	11.2
75歳以上	9.3	68.5	20.4	9.3	5.6

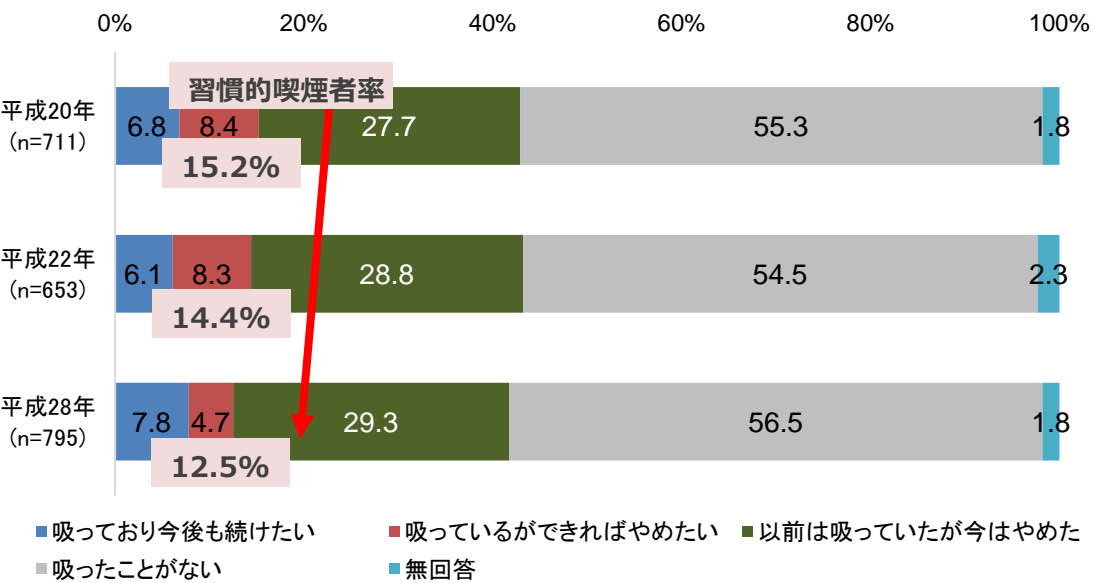
ストレスを感じる人の割合は30~40歳代は高め。



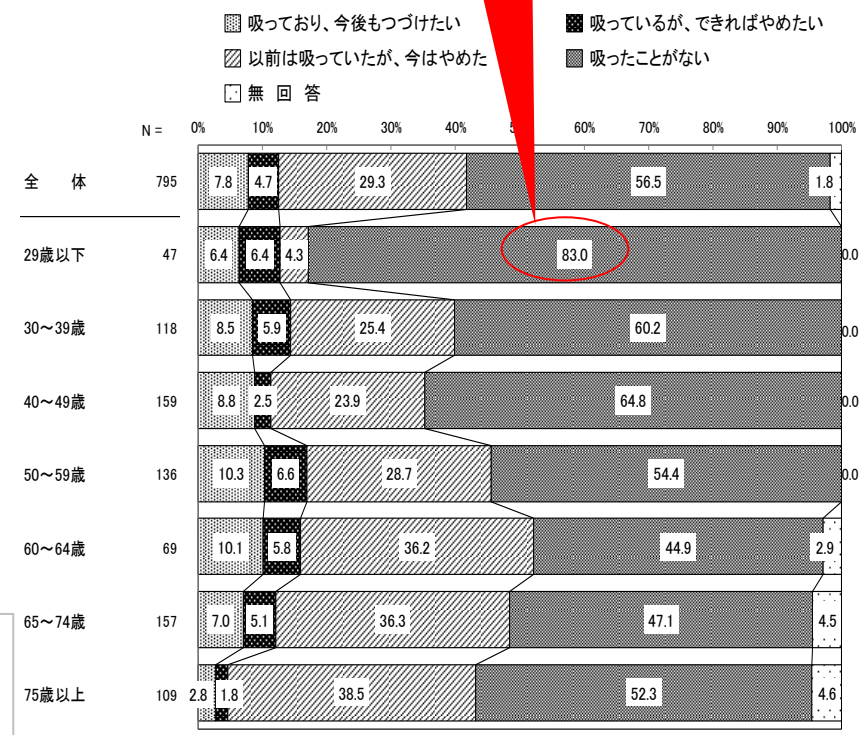
1 - 5 喫煙

- 喫煙する人の割合は12.5%。国や都の類似調査に比べると低い。過去の調査結果と比べると、減少傾向が続いている。
- 吸っているができればやめたい人が一定数ある。

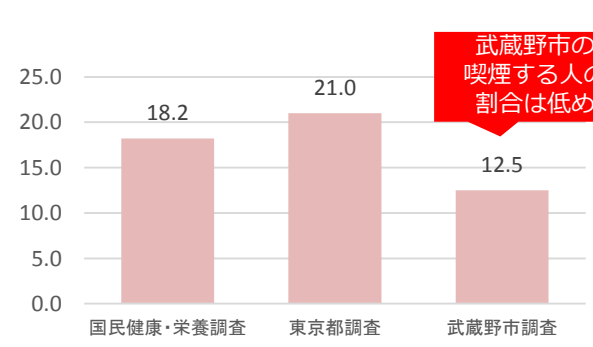
【現在の喫煙状況】



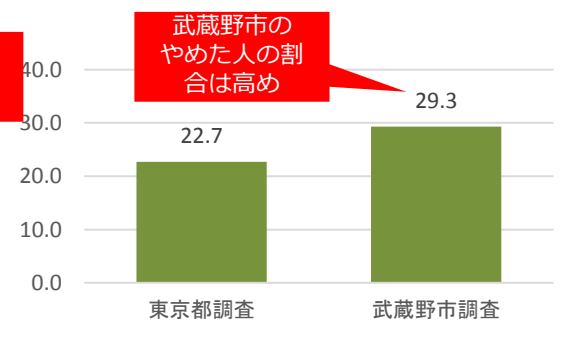
20歳代で「吸ったことがない」人が8割を超えている



【「習慣的喫煙者」の比較】



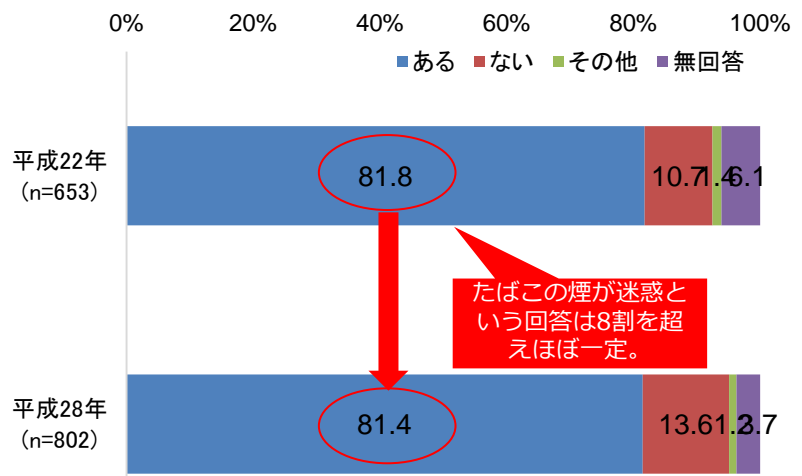
【「過去習慣的喫煙者」の比較】



【参考】東京都生活文化局の「健康と保健医療に関する世論調査」(平成29年3月)によると、習慣的喫煙者のうち、たばこを「やめたい」人は32.2%、「本数を減らしたい」が27.6%、「やめたくない」28.7%、「わからない」11.5%である。

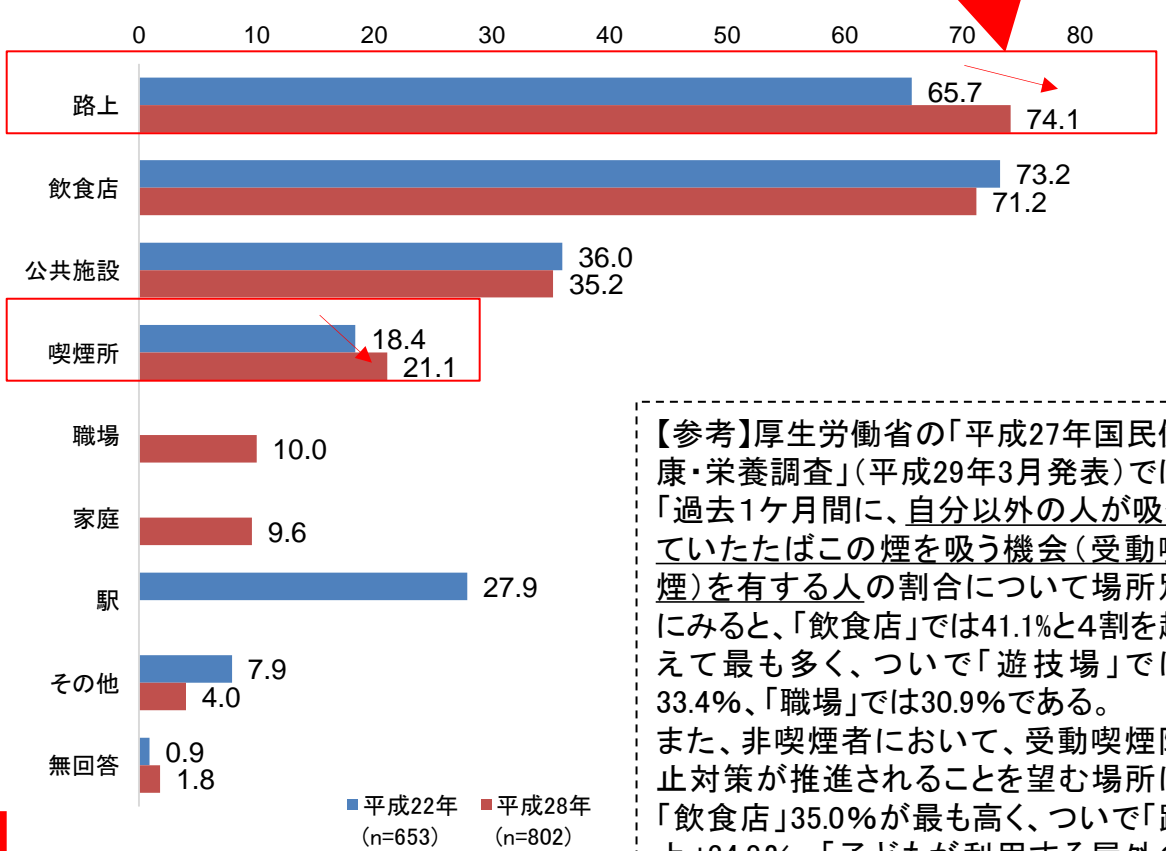
● たばこの煙を迷惑に思う場所については「路上」の割合が前回調査よりも上昇。路上禁煙地区の指定から10年以上が経過し、路上=禁煙のイメージが定着している様子がうかがえる。また、喫煙所からの煙が迷惑と思うという回答も増えている。

【たばこの煙を迷惑に思うことがある】

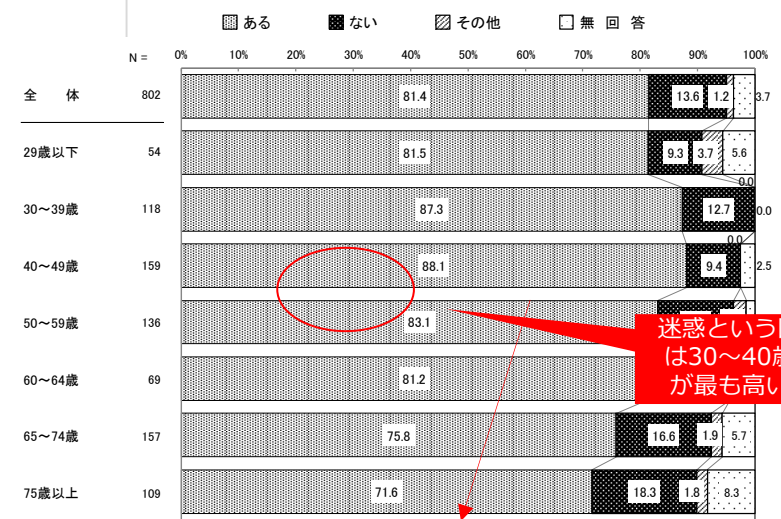


たばこの煙が迷惑という回答は8割を超えほぼ一定。

【たばこの煙を迷惑に思う場所】



特に「路上」の割合が増えている。



迷惑という回答は30~40歳代が最も高い。

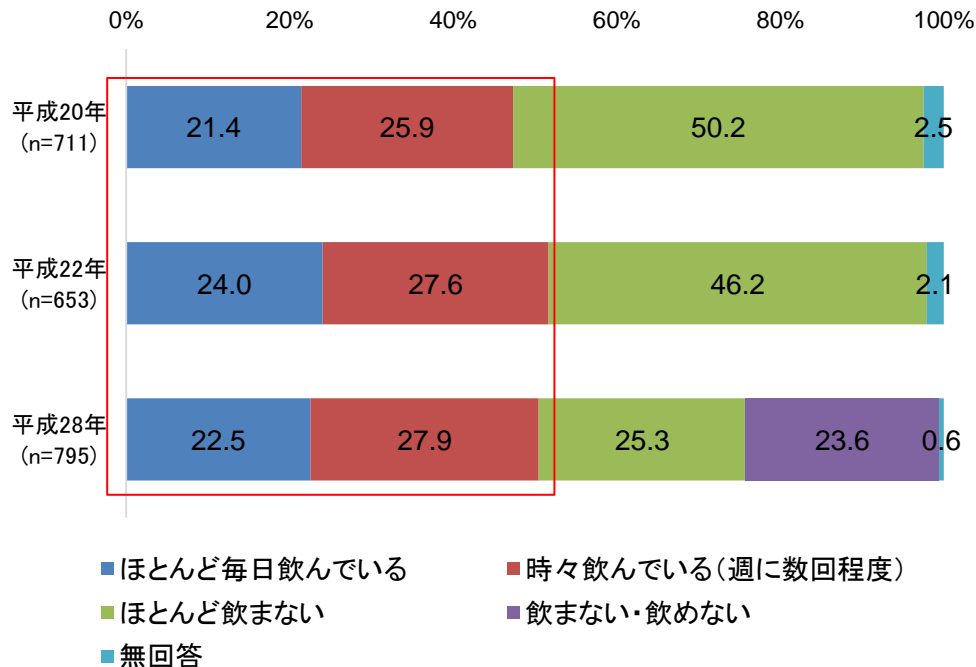
【参考】厚生労働省の「平成27年国民健康・栄養調査」(平成29年3月発表)では、「過去1ヶ月間に、自分以外の方が吸っていたたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)を有する人の割合について場所別にみると、「飲食店」では41.1%と4割を超えて最も多く、ついで「遊技場」では33.4%、「職場」では30.9%である。また、非喫煙者において、受動喫煙防止対策が推進されることを望む場所は「飲食店」35.0%が最も高く、ついで「路上」34.8%、「子どもが利用する屋外の空間(公園、通学路など)」が28.2%である。



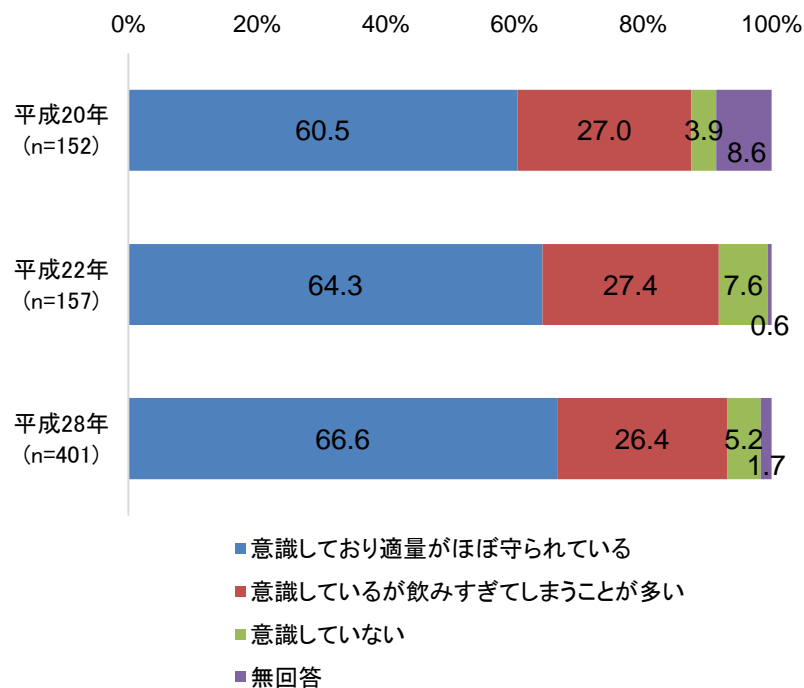
1 - 6 飲酒

- 飲酒の状況（ほぼ毎日＋時々飲む）は、過去の調査と大きくは変わらない。また、東京都調査と比べても飲酒の状況に大きな差はない。
- 飲酒の適正量を意識して飲酒する人の割合が増えている。

普段、お酒を飲みますか



自分にとっての適量を意識していますか



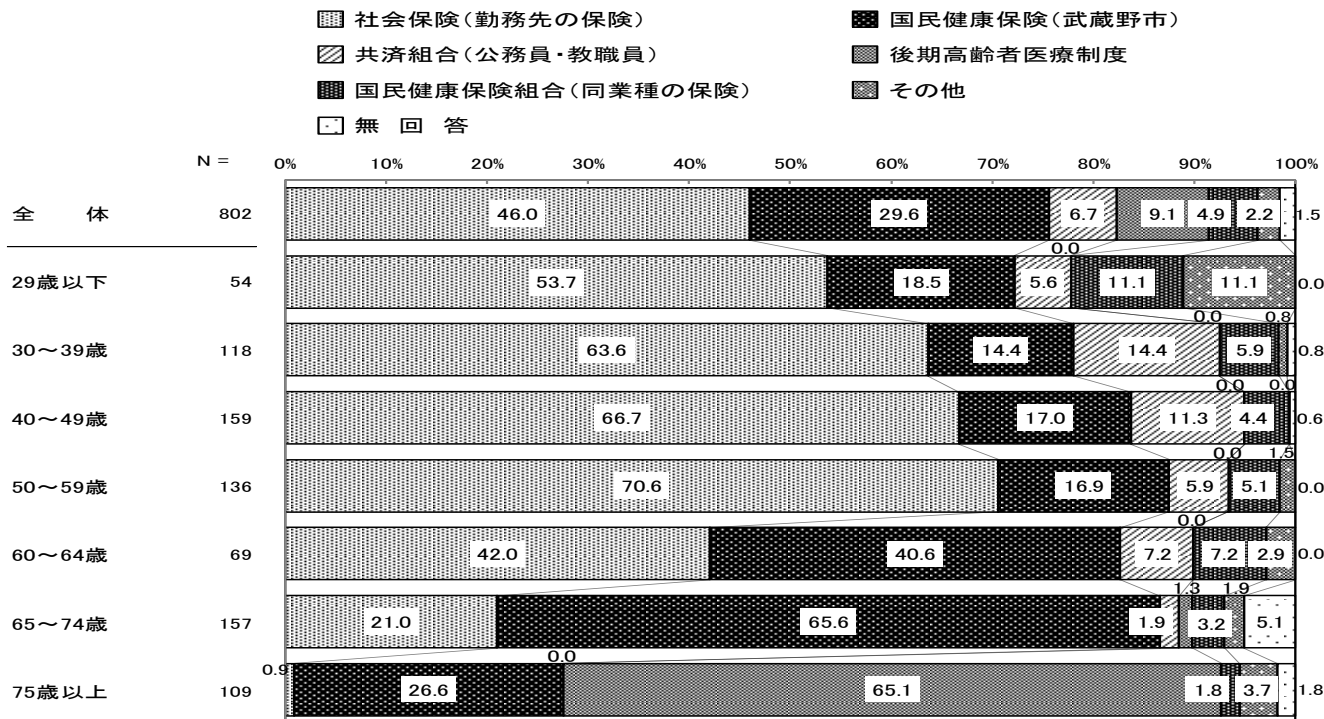
【参考】東京都生活文化局の「健康と保健医療に関する世論調査」(平成29年3月)では、週に何日位飲酒するかを聞いている。「毎日」が17.3%、「週5～6日」が6.3%で計23.6%(武蔵野市では「ほぼ毎日」が22.5%)、「週3～4日」7.2%、「週1～2日」12.3%で計19.5%(同「時々飲んでいる(週1～4日程度)」が27.9%)、「月に1～3日」が12.5%、「ほとんど飲まない(飲めない)」が41.6%(同「ほとんど飲まない」25.3%、「飲まない・飲めない」23.6%で計51.5%)である。

1 - 7 健康診査など

● 加入している健康保険は、50歳代を中心に勤務先の社会保険の加入率が高い。

【加入している健康保険】

問3 加入している健康保険[%]



※ 武蔵野市国民健康保険加入者の健康課題に対する事業の取り組みについては、武蔵野市国民健康保険データヘルス計画（平成29年3月策定）で方向性が示されている。

- ※ 武蔵野市で実施している健康診査
 - ・ 30歳～39歳 若年層健康診査
 - ・ 75歳～ 後期高齢者健康診査
 - ・ 40歳～74歳 特定健康診査（武蔵野市国民健康保険加入者）
 - ・ 40歳～ 生活保護受給者健康診査

● 健康診査等を受けていない人で「今のところ健康だから」と回答する割合が上位を占めている。

【受けていない理由】

	定期的な健康診査	胃がん検診	肺がん検診	大腸がん検診	子宮がん検診 (女性のみ)	乳がん検診 (女性のみ)
1位	今のところ健康だから	職場の健診を受けているから	今のところ健康だから	職場の健診を受けているから	職場の健診を受けているから	対象年齢でないから
2位	病気が見つかるのが怖いから	今のところ健康だから	職場の健診を受けているから	今のところ健康だから	今のところ健康だから	職場の健診を受けているから
3位	関心がないから	人間ドックを受けているから	人間ドックを受けているから	人間ドックを受けているから	人間ドックを受けているから	今のところ健康だから

課題

▶ 健康寿命の延伸の実現のために、より多くの市民が健診に対する興味・関心の普及啓発への取り組む必要があるのではないか。

●健康診査結果データから見える傾向①

【若年層健康診査及び特定健康診査結果データからメタボリックシンドローム該当者の出現率(平成28年度)】平成28年度健康診査結果データより

【生活保護受給者健康診査結果データからメタボリックシンドローム該当者の出現率(平成28年度)】平成28年度健康診査結果データより

	受診者数	メタボリックシンドローム基準該当	メタボリックシンドローム予備群該当
30～34歳出現率	154人	0.6%	3.9%
35～39歳出現率	246人	1.2%	7.7%
40～74歳出現率	11,853人	8.5%	12.0%

	受診者数	メタボリックシンドローム基準該当	メタボリックシンドローム予備群該当
40～74歳出現率	208人	22.1%	18.8%

- 若年層のメタボリックシンドローム予備群及び該当者の出現率は、30歳代前半より30歳代後半の方が2倍多い。
- 年齢が上がるにつれて、メタボリックシンドローム該当者及び予備群該当者が増加していることから、若年層からの生活習慣病予防対策が必要

- 生活保護受給者は、国民健康保険加入者と比較してメタボリックシンドローム該当者が2.6倍、予備群該当者が1.6倍

【メタボリックシンドローム予備群・該当者の基準】

腹囲: 男性85cm以上、女性90cm以上(内臓脂肪面積 男女とも100cm²以上に相当)

血糖: 空腹時血糖110mg/dl以上

脂質: 中性脂肪値150mg/dl以上 または/かつ HDLコレステロール40mg/dl未満

血圧: 収縮期が130mmHg以上 または/かつ 拡張期が85mmHg以上

※糖尿病、高血圧症、脂質異常症で薬剤治療中の場合はそれぞれの項目に該当

腹囲 + 上記3項目(血糖・脂質・血圧)のうち

1項目に該当 ⇒ メタボリックシンドローム予備群

2項目以上に該当 ⇒ メタボリックシンドローム該当者

●健康診査結果データから見える傾向②

【後期高齢者健康診査結果データから血圧・脂質・
血糖の有所見率(平成28年度)】 平成28年度健康診査結果データより

		基準値	有所見率
血圧	収縮期血圧	140未満	31.7%
	拡張期血圧	90未満	6.4%
脂質	中性脂肪	30～149	14.3%
	HDL	40～85	15.2%
	LDL	65～139	23.4%
血糖	HbA1c	4.6～6.2	15.2%

- 75歳以上の高齢者の31.7%が高血圧症
- 動脈硬化の原因となるLDLの基準超過が23.4%
- 糖尿病のリスクのある人は15.2%

【血糖と腎機能の関係】

平成28年度健康診査結果データより

	クレアチニン有所見率	尿素窒素有所見率
HbA1c 有所見者	33.5%	27.2%
HbA1c 正常者	28.0%	23.4%

■ 腎機能は、加齢に伴い低下するがHbA1c基準範囲外（糖尿病リスクが高い）とHbA1c基準範囲内（糖尿病リスクが低い）と比較した場合、腎機能を反映する「クレアチニン」と「尿素窒素」の基準超過している率は、HbA1c基準範囲外（糖尿病リスクが高い）の方が多い。

●健康診査結果データから見える傾向③

【眼科健康診査と健康診査結果の関係(平成28年度)】平成28年度健康診査結果データより

眼科所見	眼科健診受診者有所見率	健康診査検査項目	眼科所見のある人のうち、健康診査結果有所見率
網膜硬化症	23.7%	血圧140以上	31.8%
		LDL140以上	23.8%
糖尿病網膜症	0.8%	HbA1c 6.3以上	82.1%

■網膜血管硬化症は高血圧、高脂血症、糖尿病網膜症は高血糖が起因している。

眼科健康診査と健康診査の両方を受診している人のうち、網膜血管硬化症の所見がある人の、31.8%が高血圧であり、23.8%がLDLの基準値を超えている。また、糖尿病網膜症の所見がある人の、82.1%がHbA1cの基準値を超えている。

■眼科の治療には血糖コントロールなどの内科的治療も必要となる。若年層における視力障害はQOLを低下させるため、生活習慣病予防対策が必要ではないか。

● 国民健康保険医療費分析から見える傾向①

【医療費上位の疾病(外来)(平成27年度)】

疾病名(中分類)	医療費(円)	レセプト件数(件)	レセプト1件当たり医療費(円)
腎不全	427,619,100	1,386	308,527
高血圧性疾患	379,673,190	25,012	15,180
糖尿病	358,067,520	12,532	28,572

出典: 武蔵野市国民健康保険データヘルス計画

【30万円以上のレセプトの状況(抜粋)(平成27年度)】

	件数(件)	割合(%)	費用額(円)	レセプト1件当たり費用額(円)
腎不全	1,026	18.2	487,260,200	474,912
虚血性心疾患	89	1.6	117,510,860	1,320,347
脳梗塞	61	1.1	50,237,710	823,569

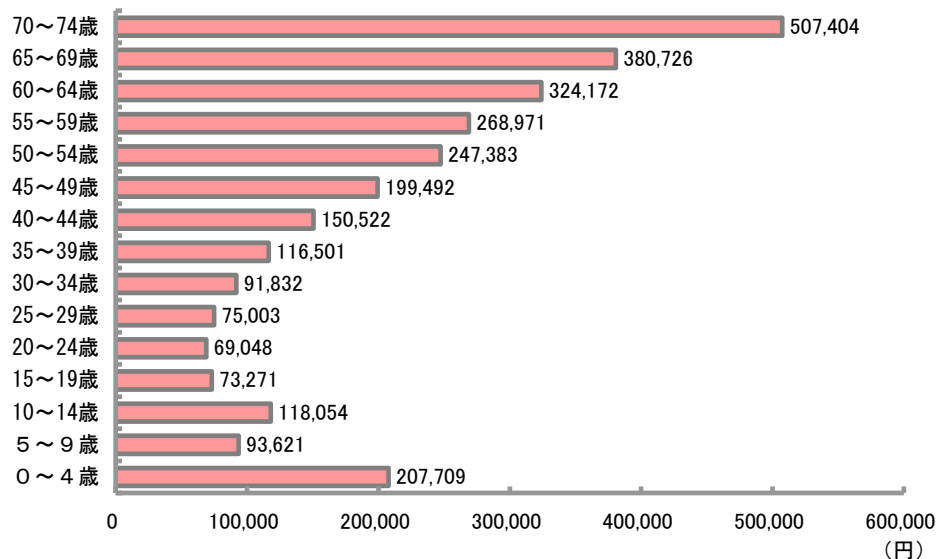
出典: 武蔵野市国民健康保険データヘルス計画

課題:

▶医療費の上位に腎不全、高血圧症性疾患、糖尿病が占めていること、30万円以上のレセプトの状況では、腎不全の件数が多く、虚血性心疾患、脳梗塞のレセプト1件当たりの費用額が高いことから、腎不全、虚血性心疾患、脳梗塞等への重症化予防の必要があるのではないか

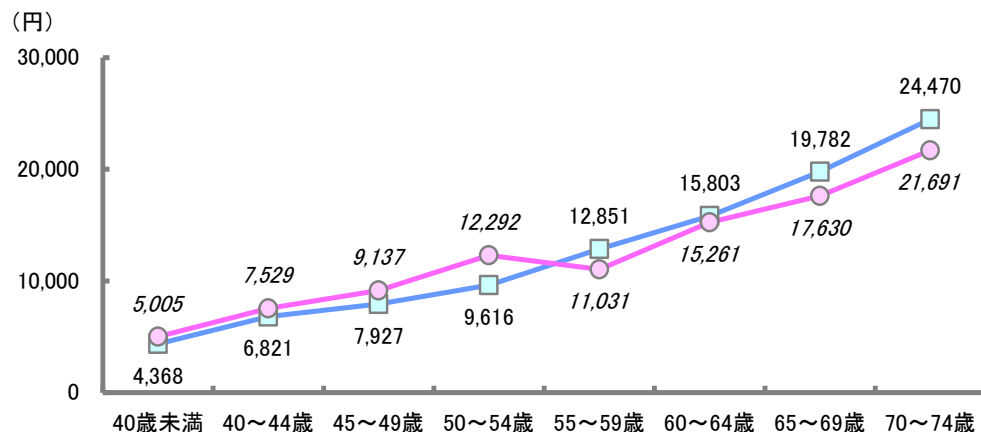
● 国民健康保険医療費分析から見える傾向②

【年代別国民健康保険被保険者1人当たり年間医療費(合計)(平成27年度)】



出典: 武蔵野市国民健康保険データヘルス計画

【性年代別生活習慣病における被保険者1人当たり医療費(外来)(平成27年度)】



課題:

▶年代が高くなるにつれて医療費が高くなる傾向から、若年層から生活習慣病予防の普及啓発への取り組みの必要があるのではないか。

出典: 武蔵野市国民健康保険データヘルス計画

● 各種がん検診受診率の計画目標値達成のため、より受診しやすい環境づくりの必要性がある。

【東京都と武蔵野市のがん検診受診率の比較(平成27年度)】

	東京都	武蔵野市	現計画目標値
胃がん	6.7%	1.1%(8.7%)	50.0%
肺がん	9.9%	0.5%(28.8%)	50.0%
大腸がん	23.5%	44.8%	50.0%
子宮がん	21.0%	34.7%	50.0%
乳がん	21.8%	13.4%	50.0%

【武蔵野市のがん検診実施機関】

	集団検診	集団検診の定員に対する充足率	個別検診
胃がん	○(1か所)	75.6%(定員745人)	×
肺がん	○(1か所)	41.6%(定員565人)	×
大腸がん	○(1か所)	102.8%(定員600人)	○
子宮がん	×	—	○
乳がん	×	—	○

出典：東京都がん検診プロセス指標

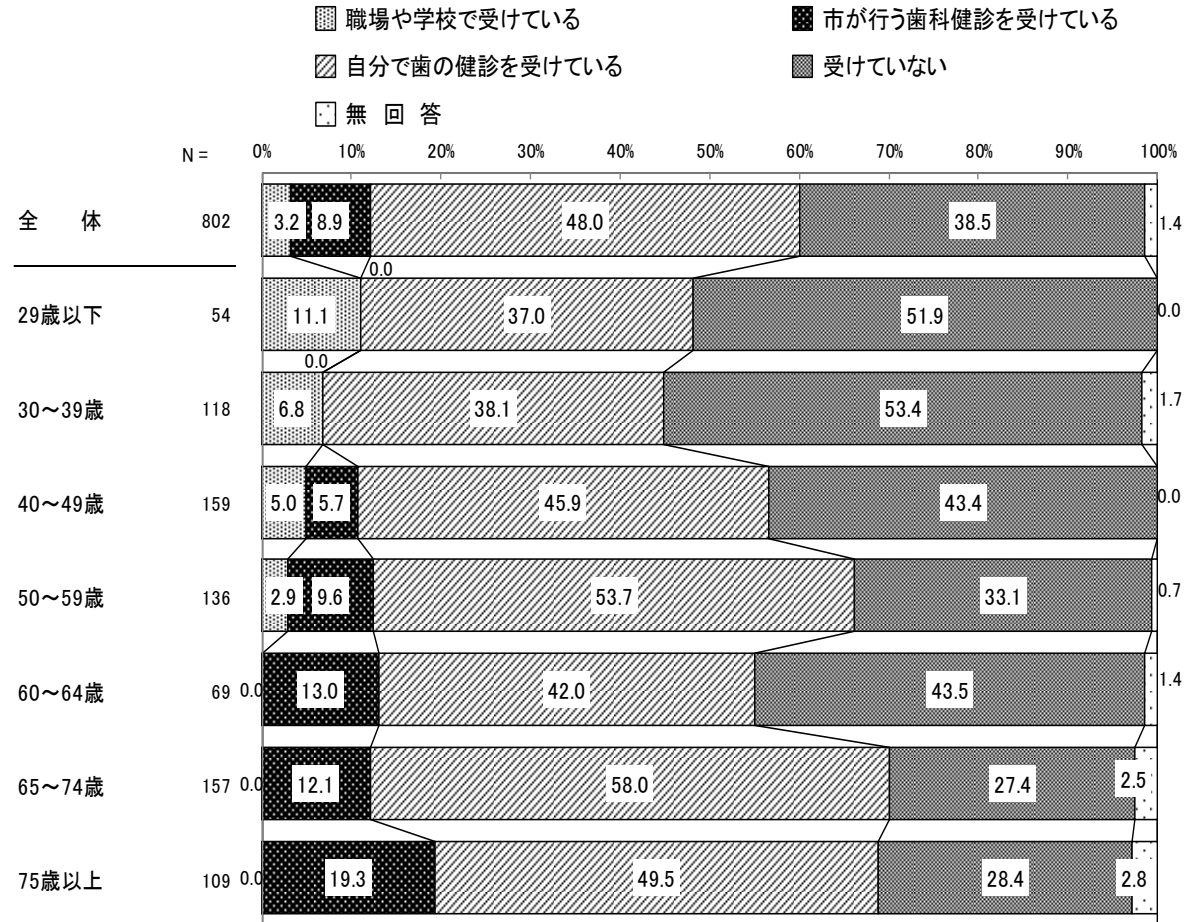
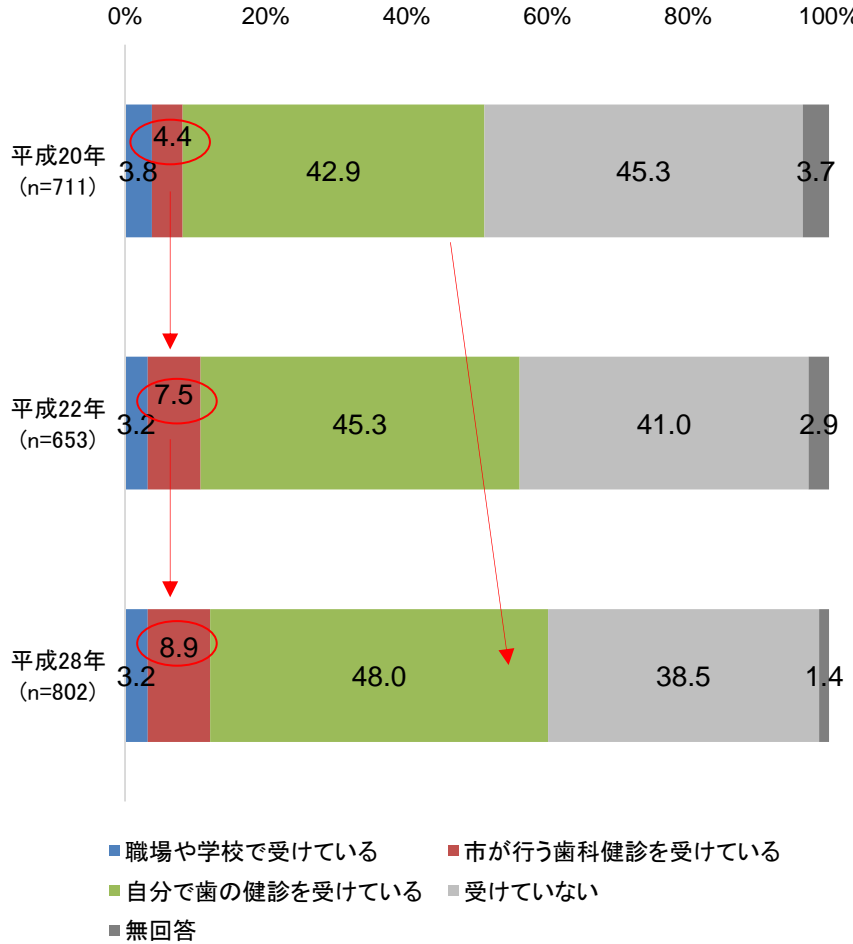
- 特定健康診査及び後期高齢者健康診査で同時実施している上部消化管X線検査及び胸部X線検査の実施している方法は、東京都がん検診の精度管理のための技術的指針と違うため、東京都が実施しているがん検診プロセス指標に含めることができない。
- カッコ内の数値は、上部消化管X線検査及び胸部X線検査を含めた場合の受診率を示している。

課題：

▶ 定期的ながん検診の受診により病気の早期発見、早期治療とつながり、健康寿命の延伸を実現する。そのためには、実施機会を増やし、より多くの市民ががん検診を受診できるようにする必要があるのではないかな。

● 歯科健診を受けている人の割合及び市が行う歯科健診を受診している人の割合は過去の調査と比べ増えている。

【定期的に歯の健診を受けているか】

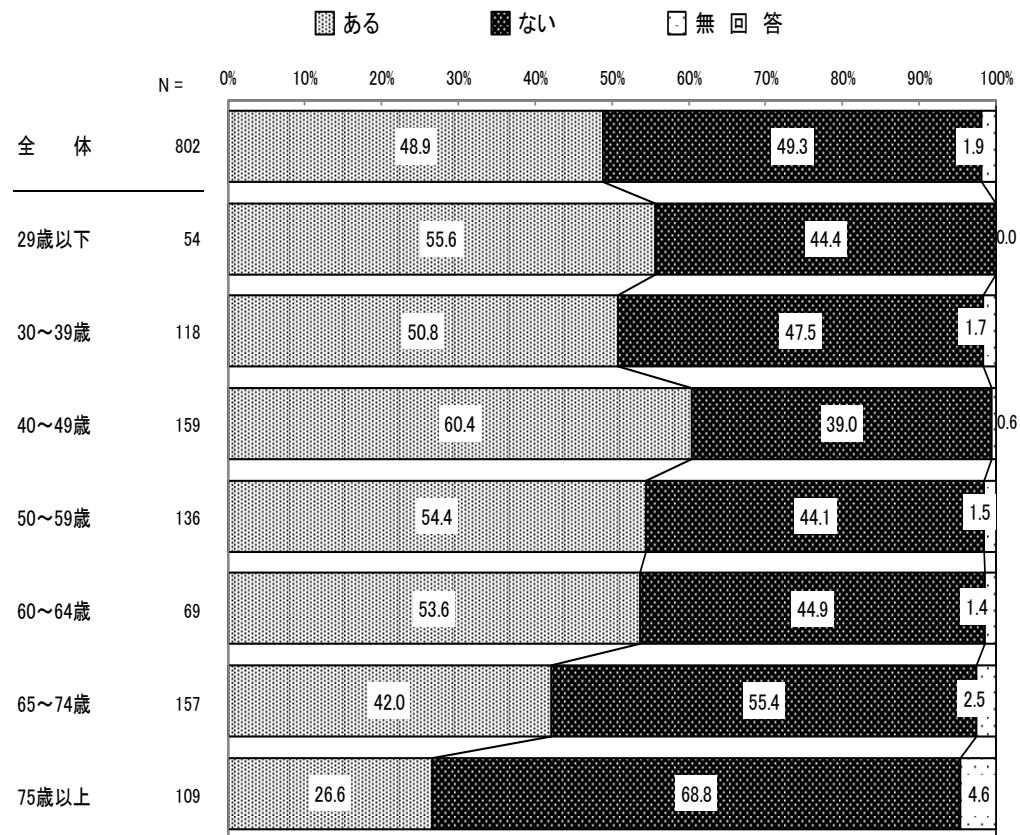




1 - 8 アレルギー

● 全体の約半数がアレルギーを持っている。アレルギーの種類では花粉の割合が高い。

【アレルギーの有無】



【アレルギーの種類(回答者全員の割合)】

	花粉(スギ、ヒノキ等)	食物(卵、乳、大豆、小麦、米等)	ハウスダスト、ダニ	動物(犬、猫等)	その他
全体	39.5	3.6	17.6	3.9	8.2
29歳以下 (n=54)	44.4	5.6	25.9	7.4	9.3
30～39歳 (n=118)	42.4	5.1	29.7	7.6	4.2
40～49歳 (n=159)	44.7	2.5	22.0	4.4	7.5
50～59歳 (n=136)	47.1	5.9	22.8	5.1	11.0
60～64歳 (n=69)	43.5	5.8	14.5	4.3	13.0
65～74歳 (n=157)	35.7	1.3	8.3	0.6	7.6
75歳以上 (n=109)	20.2	1.8	2.8	0.0	7.3

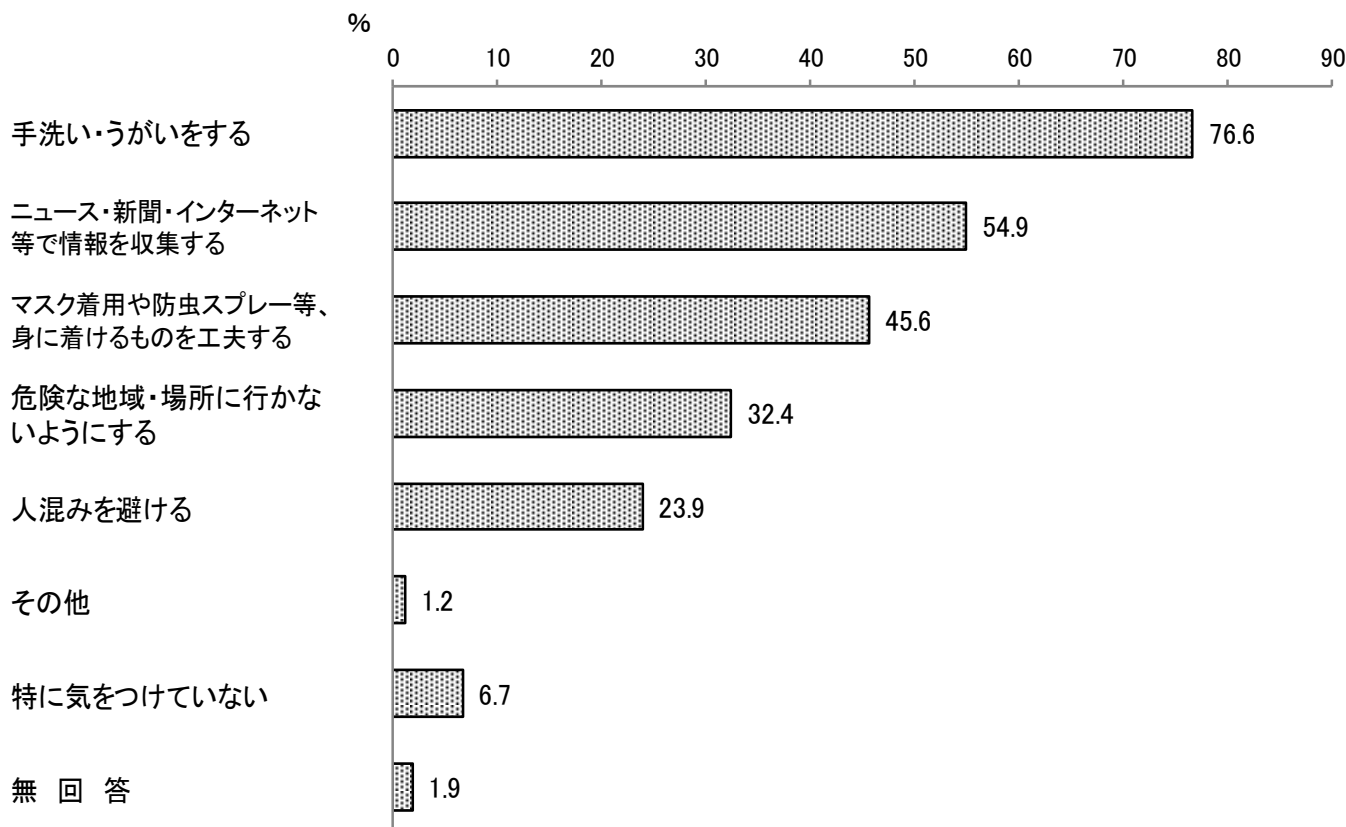
1 - 9 感染症に関する危機管理

● 9割以上の人は何かしらの対策を行っており、何も気をつけていない人は6.7%である。

【社会的影響の大きい感染症対策(複数回答)】

問42 社会的影響の大きい感染症対策[%・複数回答]

N = 802



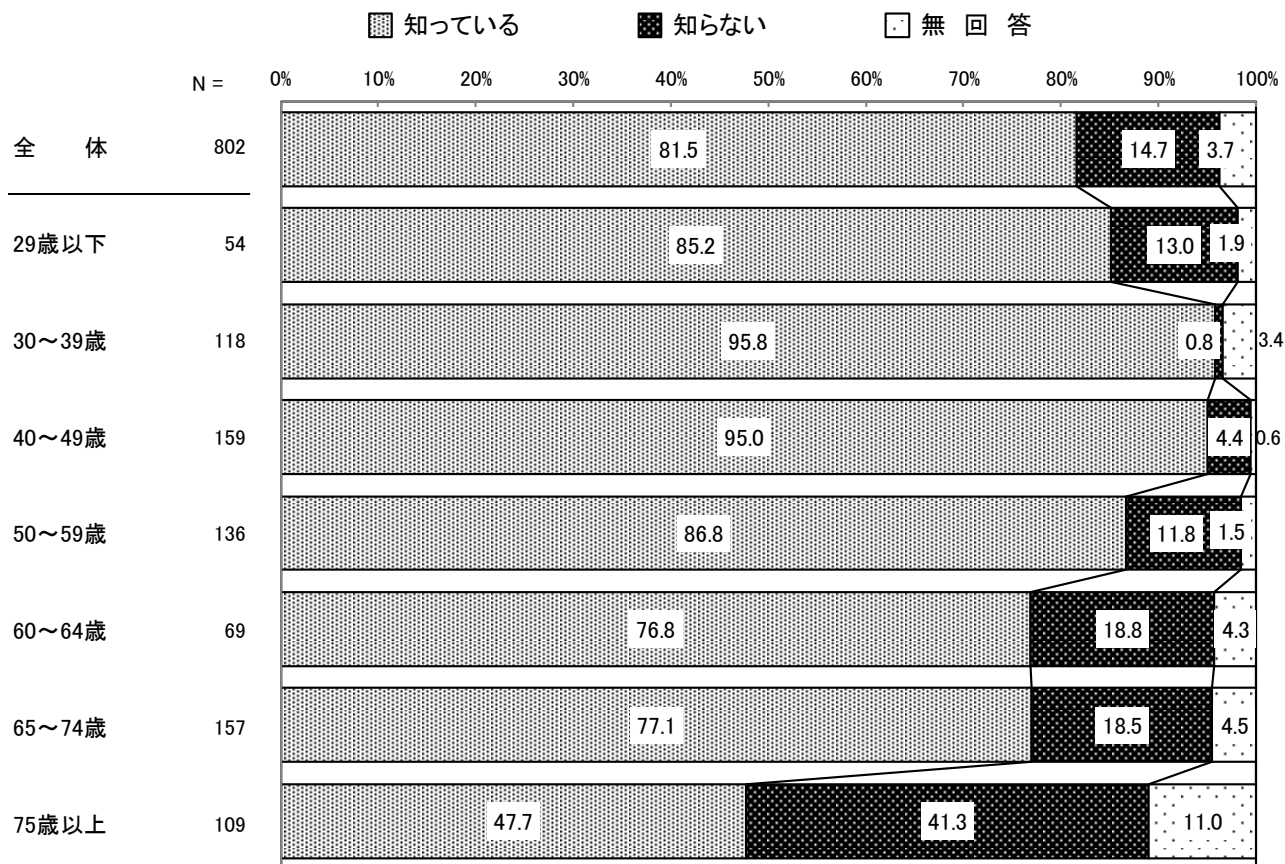


1 - 10 子育て支援

- マタニティマークの認知度は30歳代、40歳代では95%を超えている。29歳以下で85.2%、75歳以上では47.7%と年代によって差がみられる。
- マタニティマークを知っている人は、妊婦等が困っていたときに声をかける割合が高い。

【マタニティマークの認知度】

問44 マタニティマークの認知[%]



【妊婦や親子連れが困っていた場合に声掛けするか】

マタニティマークの認知

	すると思う	しないと思う	わからない	無回答
全体 (n=802)	69.7	7.0	19.8	3.5
知っている (n=654)	76.3	6.4	17.0	0.3
知らない (n=118)	49.2	11.9	37.3	1.7

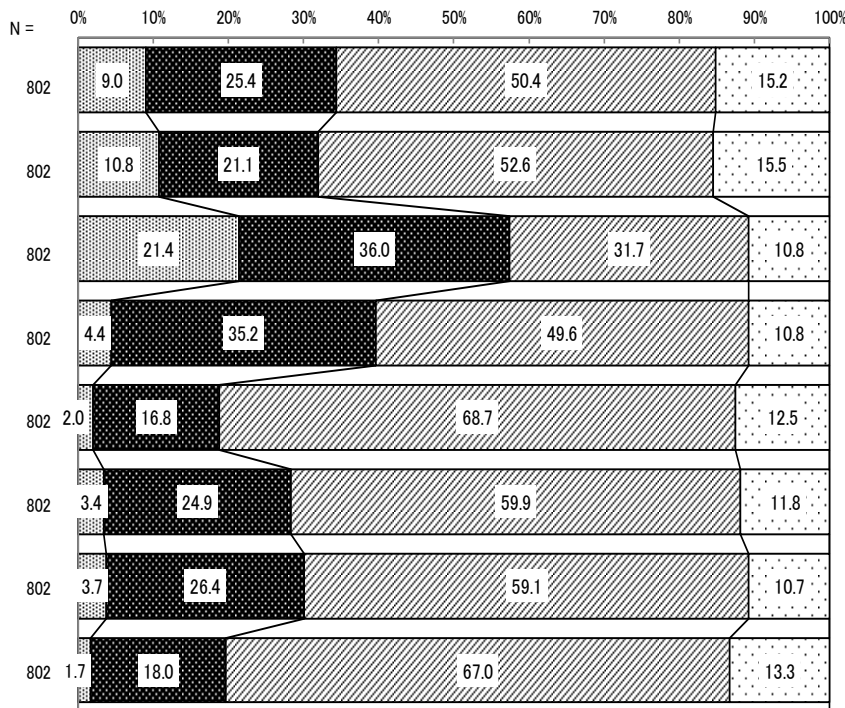
**1 - 1 1 健康増進事業で市に重点的に取り組んで欲しい
項目**

● 事業の認知度は4割以下であるが、参加者の満足度は、おおむね6割を超えており、高い。

【事業の認知度・利用率・参加者の満足度】

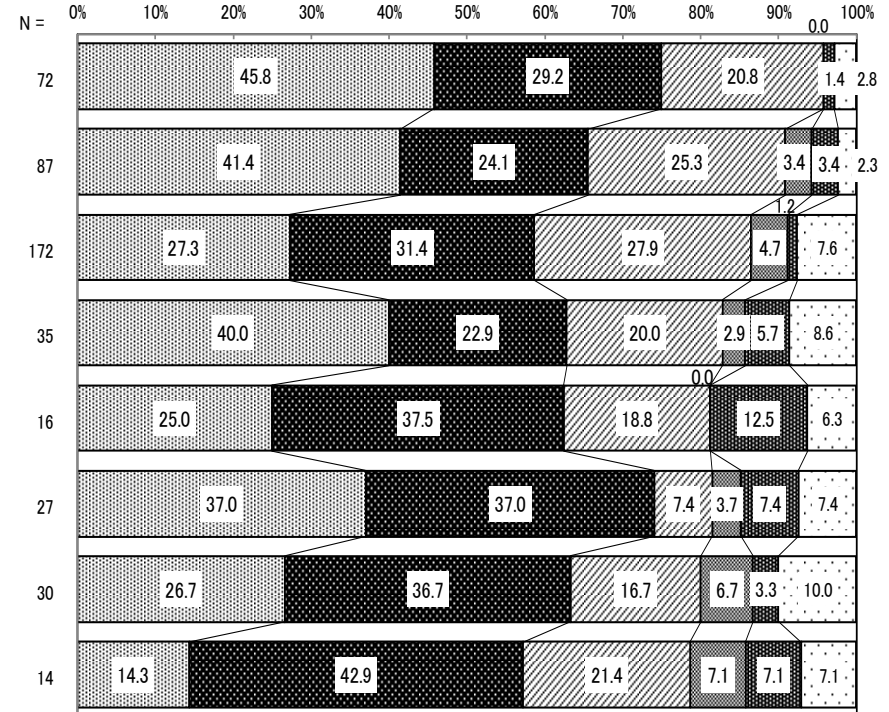
〔事業の認知度・利用率〕

知っている、利用(参加)したことがある
 知っているが、利用(参加)したことはない
 知らない
 無回答



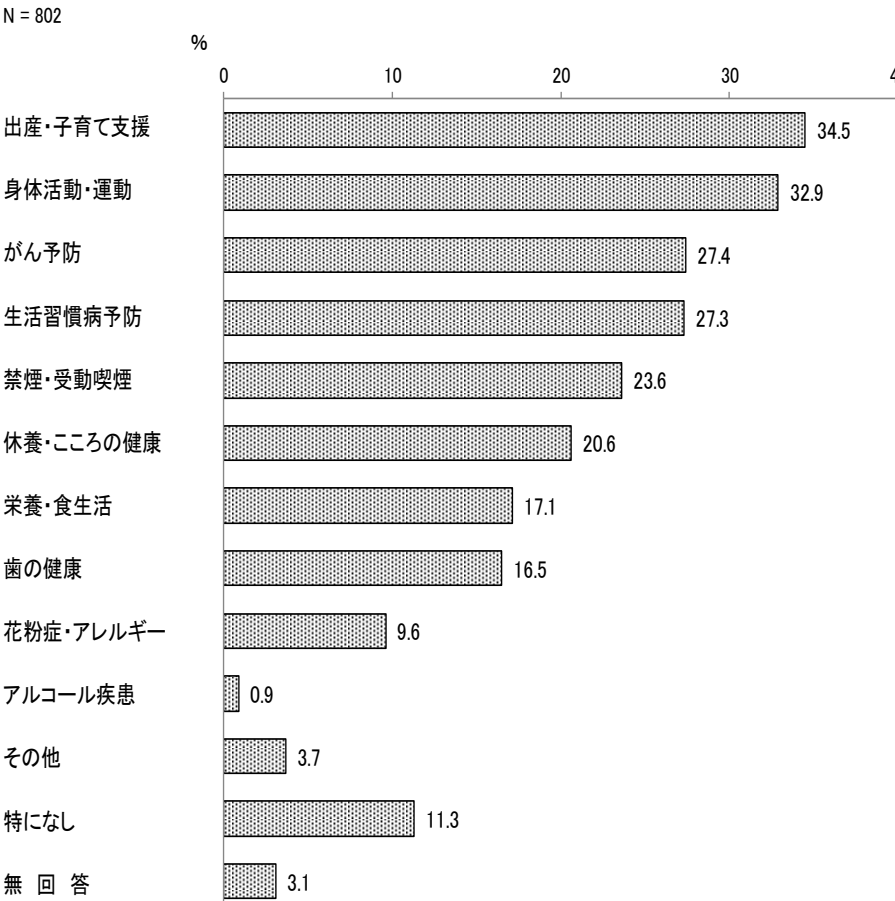
〔参加者の満足度〕

満足
 やや満足
 ふつう
 やや不満
 不満
 無回答

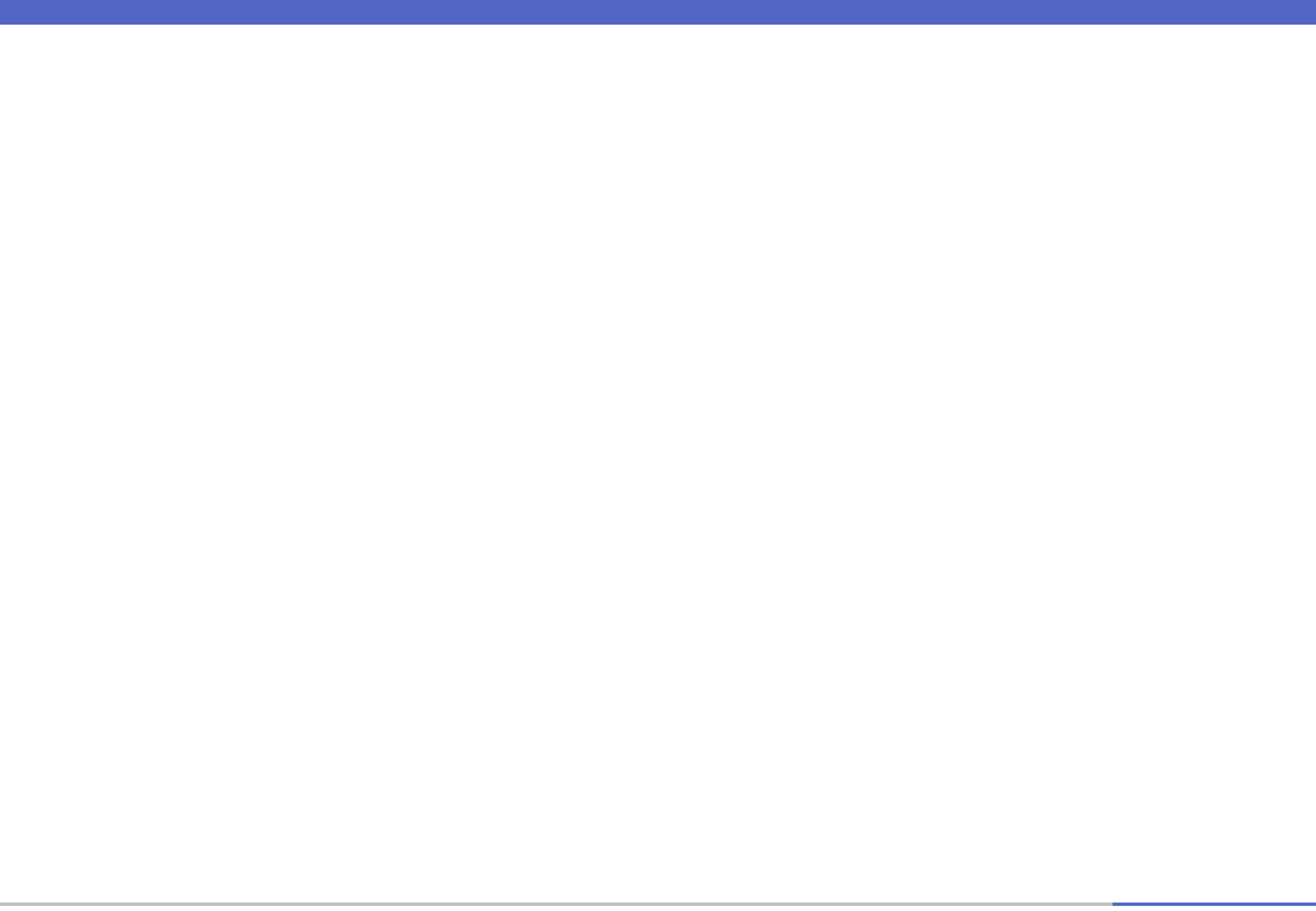


●それぞれの施策ごとに、年代による差がみられる。禁煙・受動喫煙、は29歳以下が高いことや、がん予防が30歳代が最も高いなど、若い人の方が取り組んでほしいという回答が多い項目もある。

【市に重点的に取り組んで欲しい項目】(%・複数回答)



	栄養・食生活	身体活動・運動	休養・こころの健康	禁煙・受動喫煙	アルコール疾患	歯の健康	生活習慣病予防	がん予防	出産・子育て支援	花粉症・アレルギー	特になし
全体	17.1	32.9	20.6	23.6	0.9	16.5	27.3	27.4	34.5	9.6	11.3
29歳以下	18.5	29.6	22.2	46.3	0.0	9.3	11.1	14.8	38.9	14.8	9.3
30～39歳	11.9	22.9	20.3	21.2	0.0	17.8	15.3	35.6	66.9	5.1	6.8
40～49歳	21.4	30.2	24.5	22.6	1.3	15.1	22.6	27.7	37.1	10.7	7.5
50～59歳	16.9	37.5	19.9	30.9	0.7	18.4	36.8	30.1	33.1	5.9	9.6
60～64歳	13.0	44.9	15.9	15.9	0.0	24.6	29.0	27.5	30.4	18.8	13.0
65～74歳	16.6	33.1	21.7	22.9	1.3	15.3	31.8	24.8	22.3	10.8	15.9
75歳以上	19.3	35.8	16.5	12.8	1.8	14.7	35.8	24.8	15.6	7.3	17.4

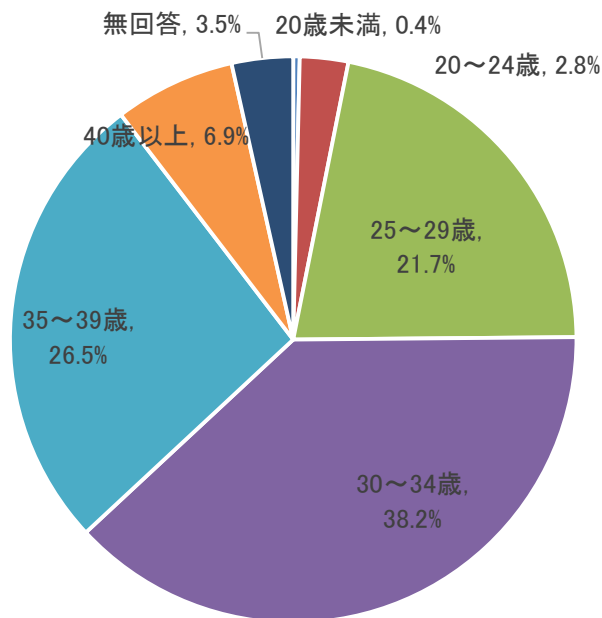


2 - 1 妊娠届出時の状況

- 妊娠届出時の母親の年齢は、35歳以上で届けている人が全体の3割以上（33.1%）である。
- 東京都人口動態統計によると、35歳以上比率は平成25年度の36.8%から38.6%に上昇している。

【妊娠届出時の年齢】

【出産時の母親の年齢別の出生数】

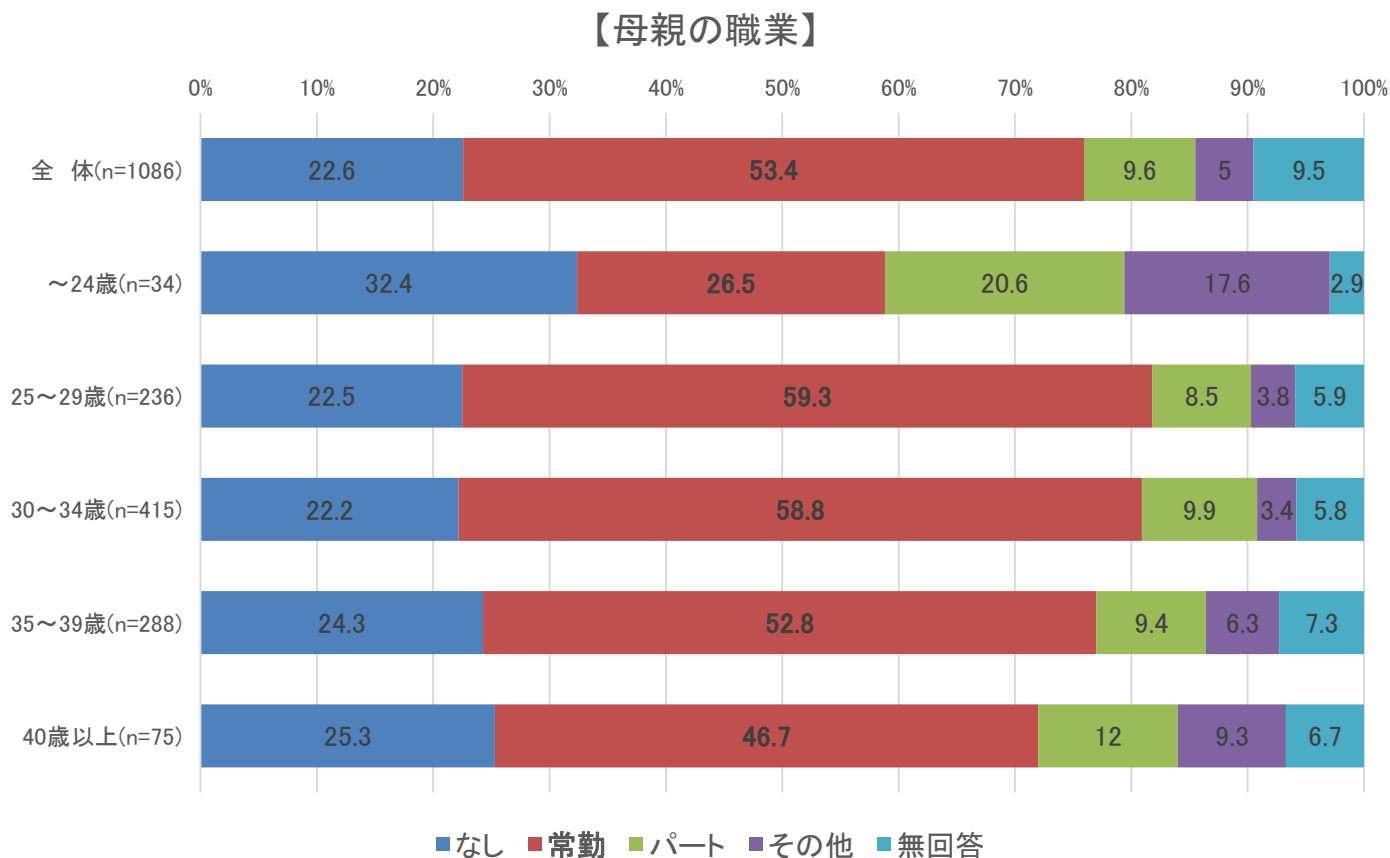


母の出産年齢	出生数		割合	
	平成25年	平成27年	平成25年	平成27年
15歳～19歳	4人	0人	0.3%	0%
20歳～24歳	35人	33人	2.8%	2.5%
25歳～29歳	234人	241人	18.5%	18.3%
30歳～34歳	527人	535人	41.6%	40.6%
35歳～39歳	378人	400人	29.8%	30.4%
40歳～44歳	87人	105人	6.8%	8.0%
45歳～49歳	2人	3人	0.2%	0.2%
総数	1267人	1317人		

出典：妊娠届出書集計

出典：東京都人口動態統計

● 母親の職業は、常勤で働いている人が全体の半数以上。特に25~34歳では6割近くに上る。



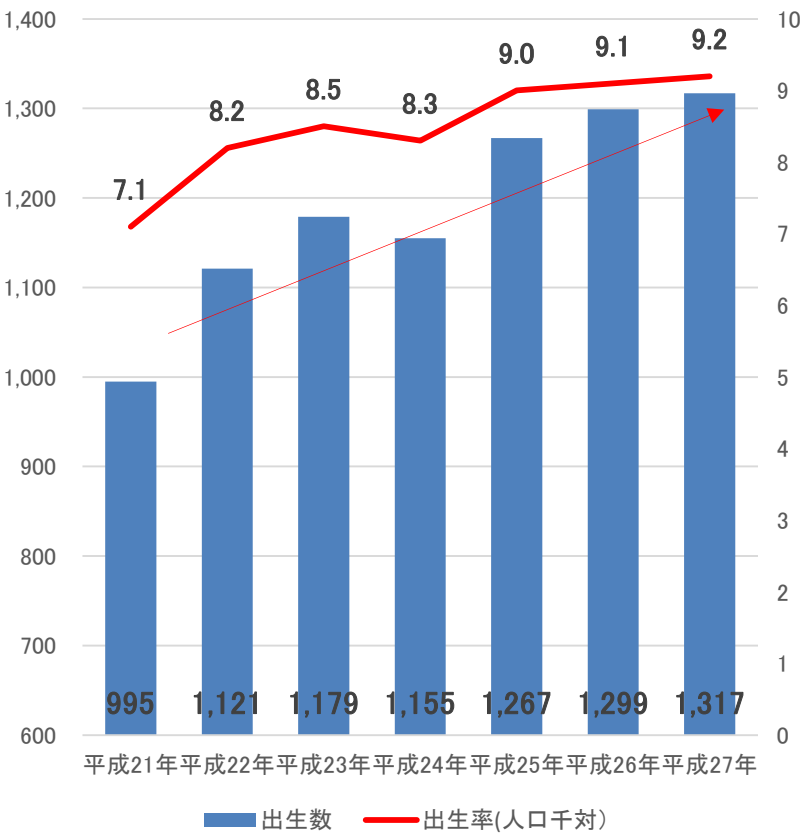
課題：

▶ 妊娠時に「常勤」で働いている人への支援

- 出生数は6年間で132%の増加。ほぼ一貫して増加傾向。
 - 各種健診受診者数は増加しており、受診率は約95%（平均）である。
- 健診実施回数を増やし、平均来所者40人前後として丁寧なスクリーニングを実施。

【出生数と出生率(人口1000人あたり)】

【乳幼児健診実施状況】

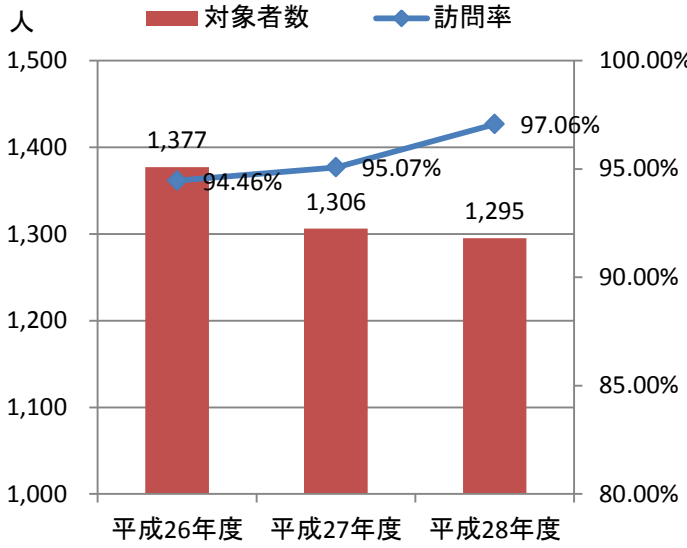


年度(平成)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
3~4か月児健診	回数(回)	24	24	26	26	30
	受診者数(人)	1,116	1,242	1,293	1,314	1,253
	対象者数(人)	1,144	1,269	1,291	1,360	1,283
	受診率(%)	97.6	97.9	100.2	96.6	97.7
	1回平均来所者数(人)	46.5	51.8	49.7	50.5	41.8
1歳6か月児保育相談	回数(回)	24	25	24	25	30
	受診者数(人)	1,070	1,067	1,145	1,202	1,277
	対象者数(人)	1,148	1,162	1,250	1,279	1,348
	受診率(%)	93.2	91.8	91.6	94.0	94.7
	1回平均来所者数(人)	44.6	42.7	47.7	48.1	42.6
3歳児健診	回数(回)	24	24	25	26	28
	受診者数(人)	944	1,050	1,099	1,123	1,187
	対象者数(人)	1,004	1,124	1,139	1,165	1,227
	受診率(%)	94	93.4	96.5	96.4	93
	1回平均来所者数(人)	39.3	43.8	44	43.2	42.4

出典: 東京都人口動態統計

- こんにちは赤ちゃん訪問の訪問（入室）率は高い。
- 家庭訪問や面接・電話での相談件数は、年々増加している。

【こんにちは赤ちゃん訪問】



※こんにちは赤ちゃん訪問の対象者数と、出生数は一致しない

【保健師活動実績】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
地区活動保健師数(人) ※職員のみ	4	7	9
家庭訪問(延)(人)	694	846	1135
面接相談(延)(人)	829	681	2043
電話相談(延)(人)	2011	3035	3479
関係機関連絡	1996	2744	2845

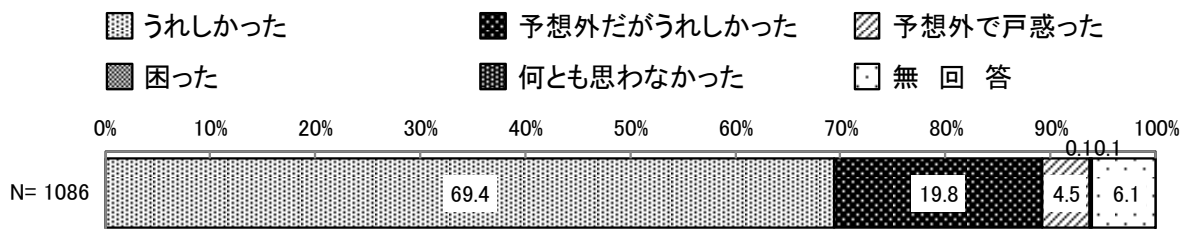
出典：保健師業務年報

2 - 2 妊娠～出産～子育ての見通しが立てられているか

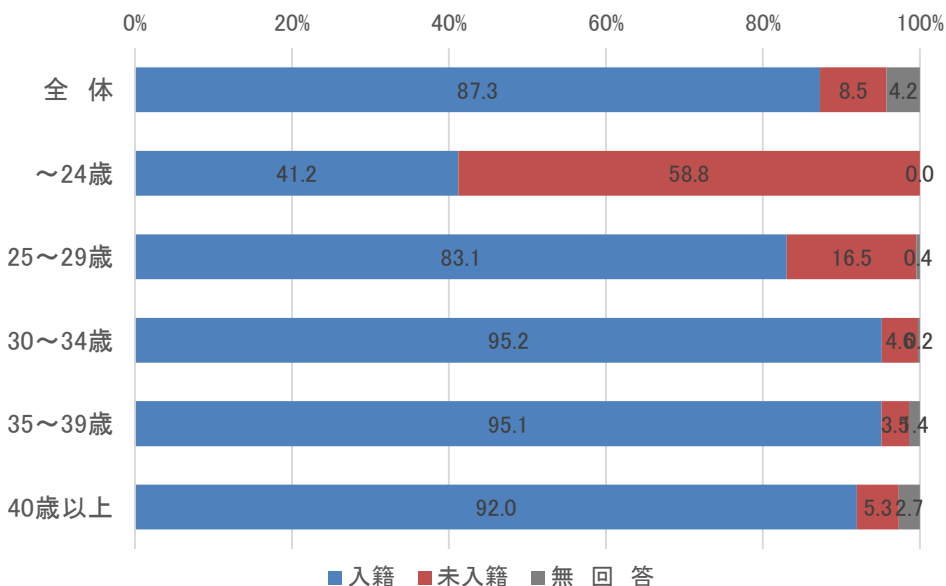
- 妊娠した時の気持ちはうれしかった人が約9割。予想外で戸惑った人が4.5%おり、そのうち出産費用が準備できていない人の割合が20.4%いる。
- 未入籍の割合が全体の8.5%を占めている。

【妊娠を知った時の気持ち】

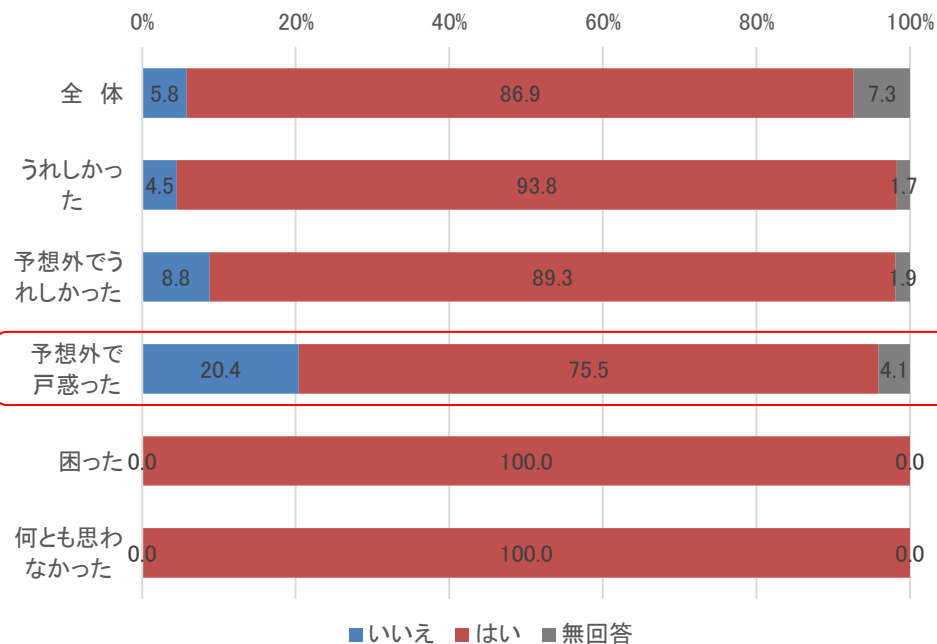
妊娠を知った時の気持ち[%]



【入籍の状況】

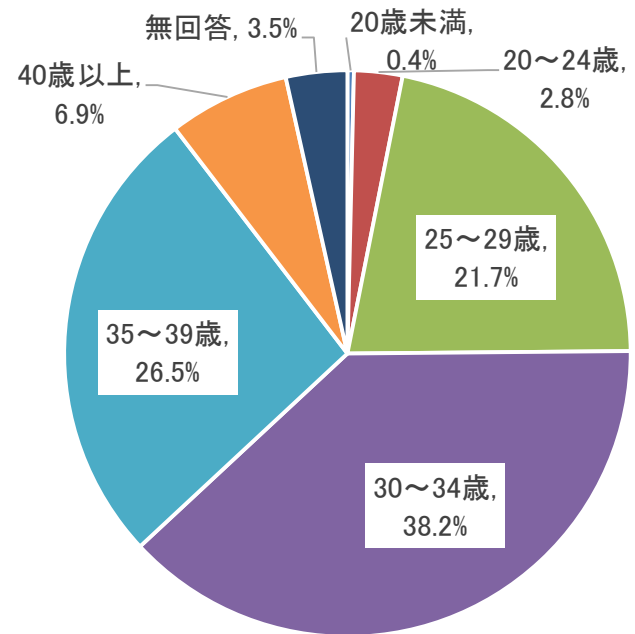


【出産費用の準備ができているか】

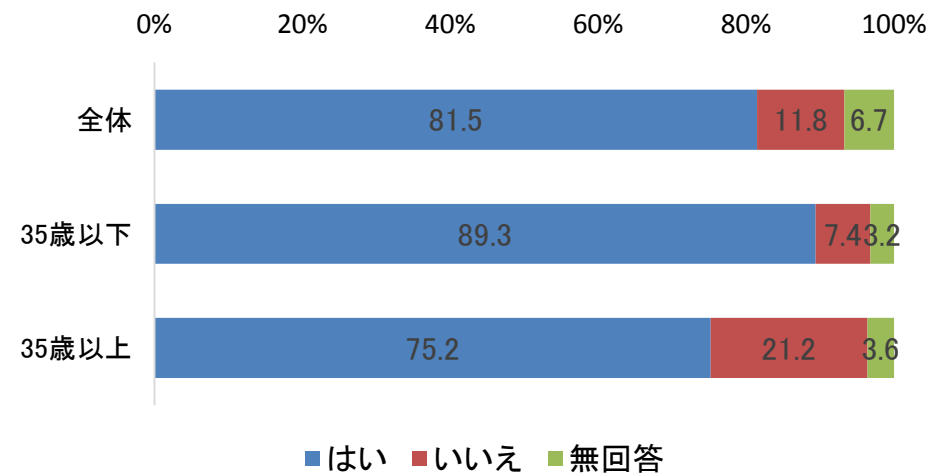


- 妊娠届出時の年齢は、33.4%が35歳以上である。
- 妊娠届出時35歳以上の人のうち、21.2%は自然妊娠でない。

【妊娠届出時の年齢】



【自然妊娠かどうか】



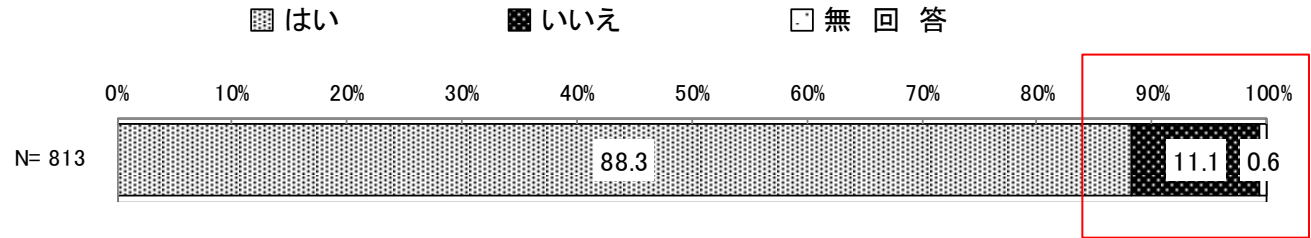
(参考) 年齢と出産リスク等について
 医学的には男性、女性ともに妊娠・出産には適した年齢があることが指摘されており、30歳代半ば頃から、年齢が上がるにつれて様々なリスクが相対的に高くなるとともに、出産に至る確率が低くなっていくことが指摘されている。
 女性の自然に妊娠する力は30歳頃から低下する。さらに、35歳前後からは流産率も上昇するほか、妊娠高血圧症候群、前置胎盤の母体と胎児に与えるリスクなど、妊娠・出産のリスクも高くなる。また、男性も加齢とともに妊娠率が低下することが指摘されている。

出典：平成25年厚生労働白書(抜粋)

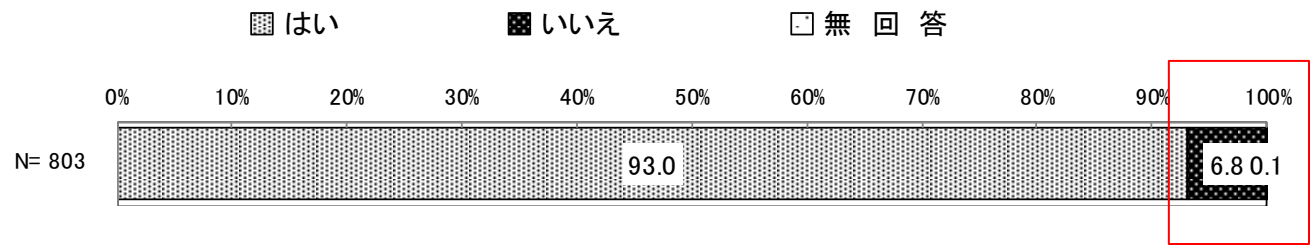
- 社会発達段階として、親の後追いをする（3～4か月児）、指差しで教えようとする（1歳6か月児）、他の子に誘われれば遊びに加わろうとする（3歳児）を知っている人が多いものの、知らない人も一定数みられる。

【社会発達段階の認知】

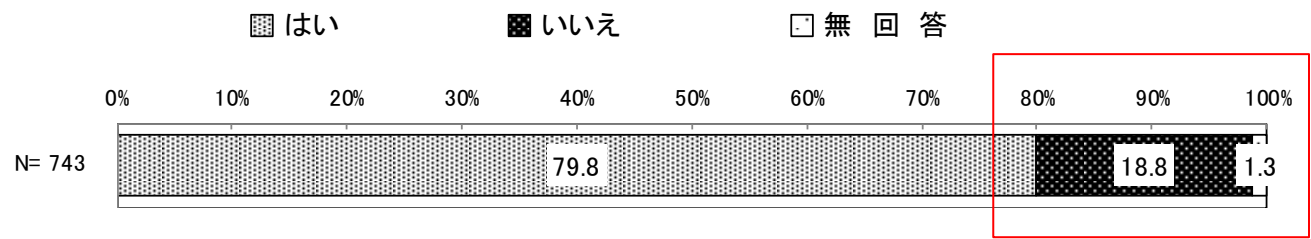
親の後追いをすることを知っている[%]



指差しで教えようとするを知っている[%]



他の子に誘われれば遊びに加わる[%]



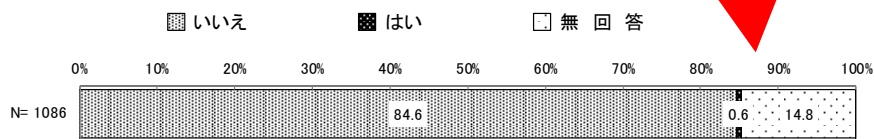
子どもの発達段階に応じたコミュニケーション行動について、「知らない」人が一定数いる

2 - 3 妊娠中・子育て中の飲酒と喫煙

● 妊娠届出書集計によると、妊娠届提出時の妊婦の喫煙率は0.6%。乳幼児健診票の集計によると乳幼児の母親の喫煙率は1.9%、父親の喫煙率は19.8%である。また、飲酒率は0.3%である。

【喫煙の状況】

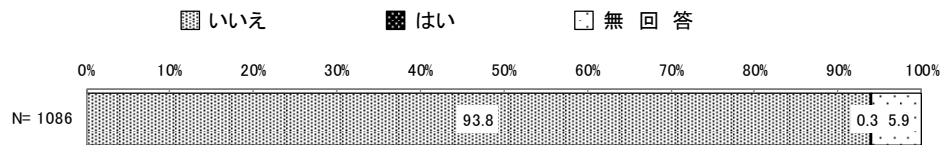
妊婦の喫煙状況



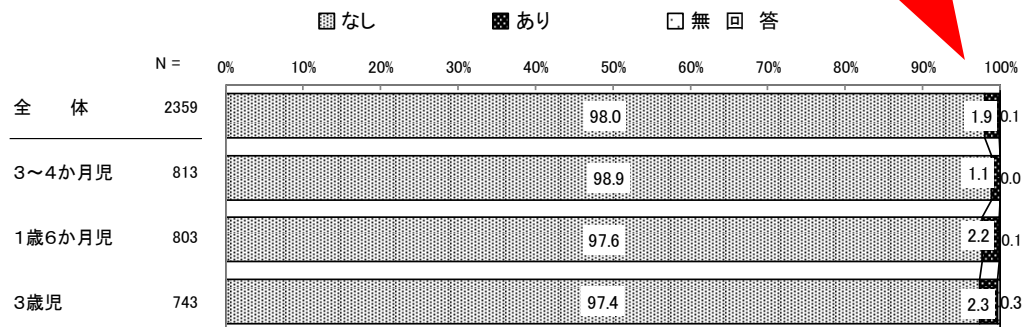
妊娠届提出時の
母親の喫煙率

【飲酒の状況】

妊婦の飲酒状況

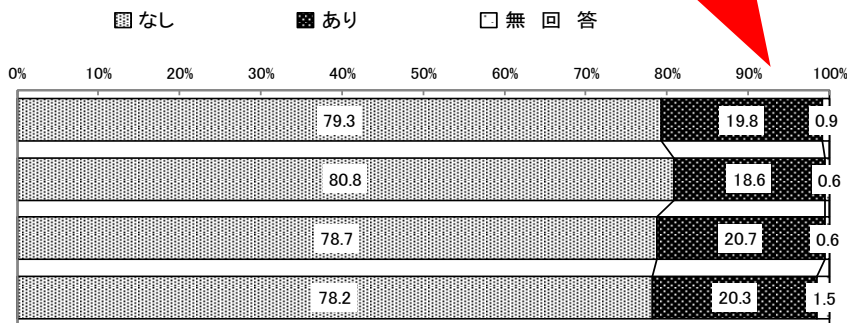


母親の喫煙状況



乳幼児の
母親の喫煙率

父親の喫煙状況

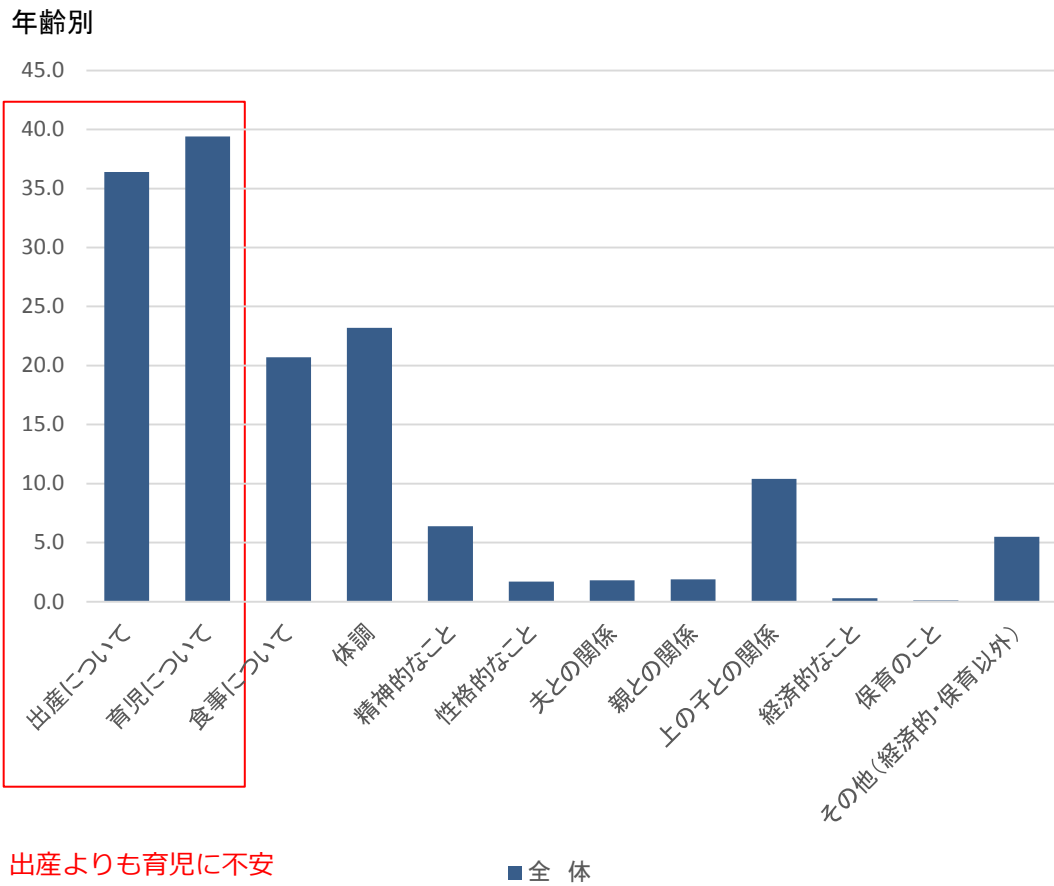


乳幼児の
父親の喫煙率

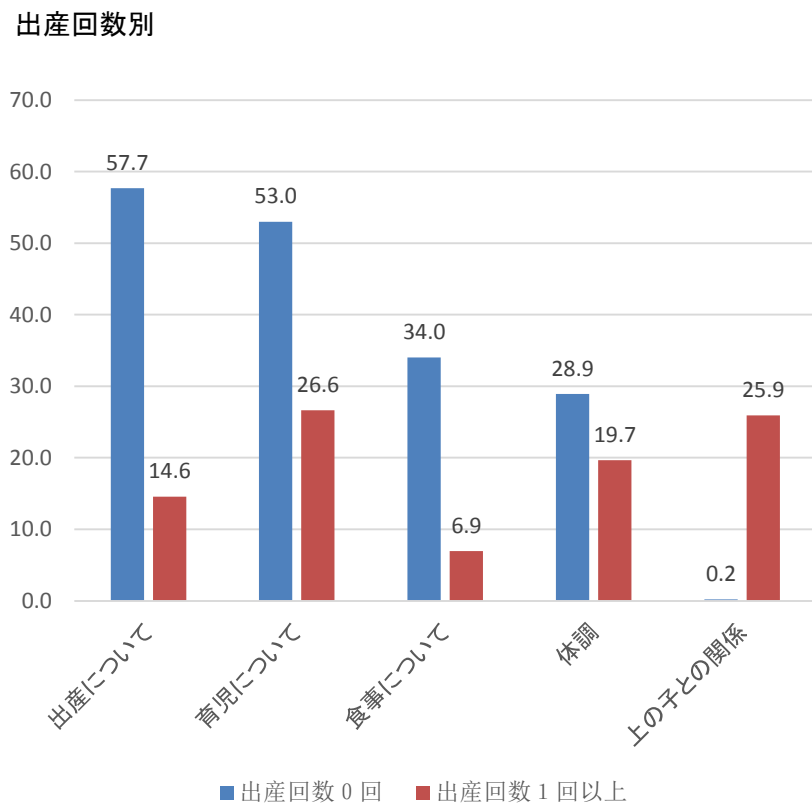
2 - 4 妊娠時・子育て中に不安なこと

- 妊娠届出時には、出産より育児についての不安の割合が高い。
- 初産の場合は、出産への不安がトップであるが、2人目以降は育児や上の子との関係をあげている人が多い。

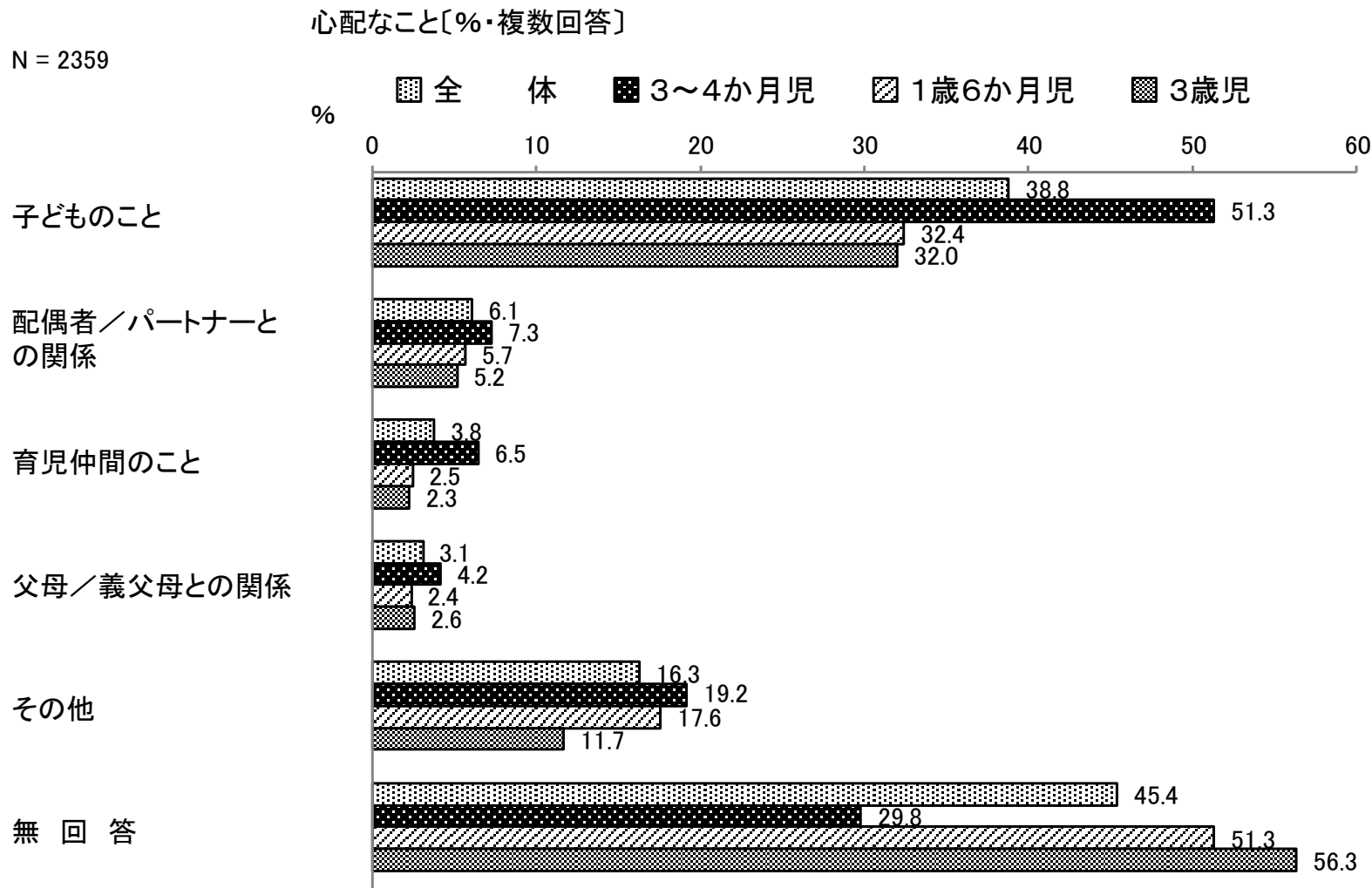
【不安なこと】



出産よりも育児に不安

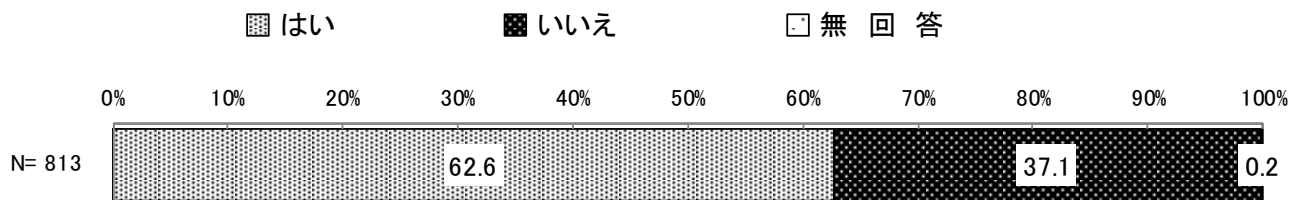


● 出産後の心配なことは「子どものこと」がもっとも多い。
3～4か月児では、すべての項目において割合が高い。

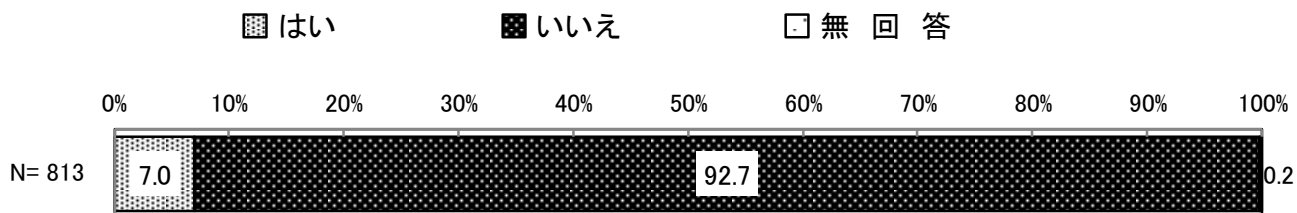


- 小児救急電話相談を知らないと回答した人は4割弱いる。
- 転落・やけど・誤飲などの事故があったと7%の人が回答している（3～4か月児健診票）
- 事故防止のため浴室のドアへの工夫をしていないと57.0%の人が回答している（1歳6か月健診票）

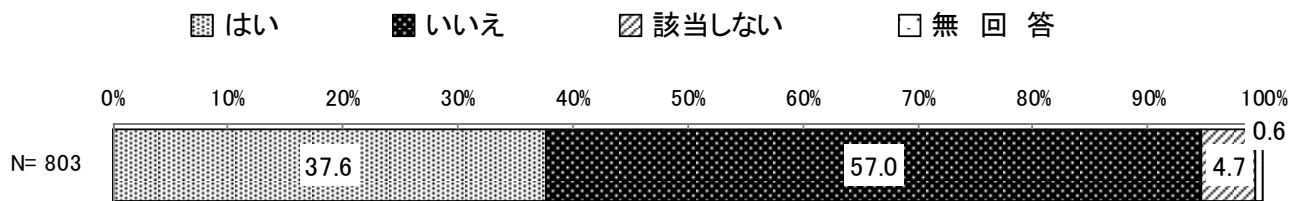
小児救急電話相談を知っているか〔%〕



転落・やけど・誤飲などの事故の経験があるか〔%〕



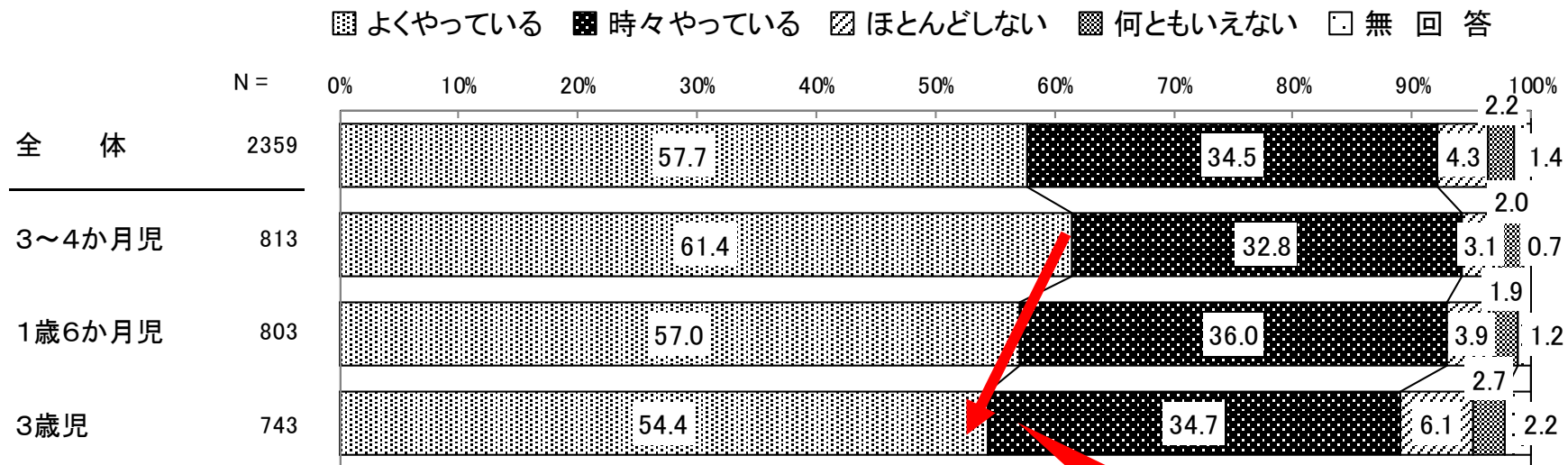
浴室のドアへの工夫をしているか〔%〕



2-5 妊娠中・子育て時に相談できる体制

●父親の育児は全体では9割以上が『やっている』と回答している。子どもが大きくなるにつれ、「よくやっている」人の割合が減少傾向である。

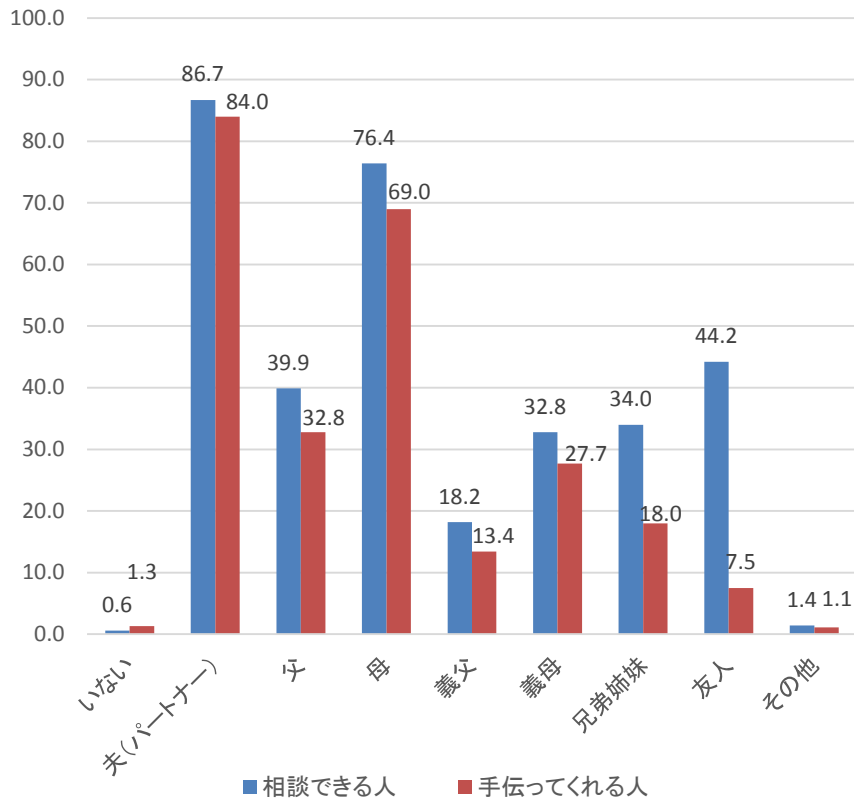
父親の育児[%]



父親の育児の積極的参加率は子どもが大きくなるにつれ減少

●相談できる人としては、夫（パートナー）と母親の割合が高い。友人や兄弟姉妹、義母もあがっているが実際に手伝ってくれる割合は低くなる。

【相談できる人と手伝ってくれる人】(複数回答)(%)



相談できる人

	夫(パートナー)	父	母	義父	義母	兄弟姉妹	友人	その他	無回答	いない
20~24歳	94.1	26.5	70.6	17.6	32.4	35.3	32.4	5.9	2.9	0.0
25~29歳	89.4	45.8	85.2	19.9	36.9	31.8	40.7	1.3	3.8	0.8
30~34歳	90.4	44.8	81.4	18.1	34.0	33.3	50.8	1.2	5.3	0.2
35~39歳	89.9	38.2	75.7	19.8	33.0	38.2	44.8	1.7	7.3	0.7
40歳以上	86.7	26.7	65.3	17.3	29.3	45.3	44	0.0	9.3	1.3

手伝ってくれる人

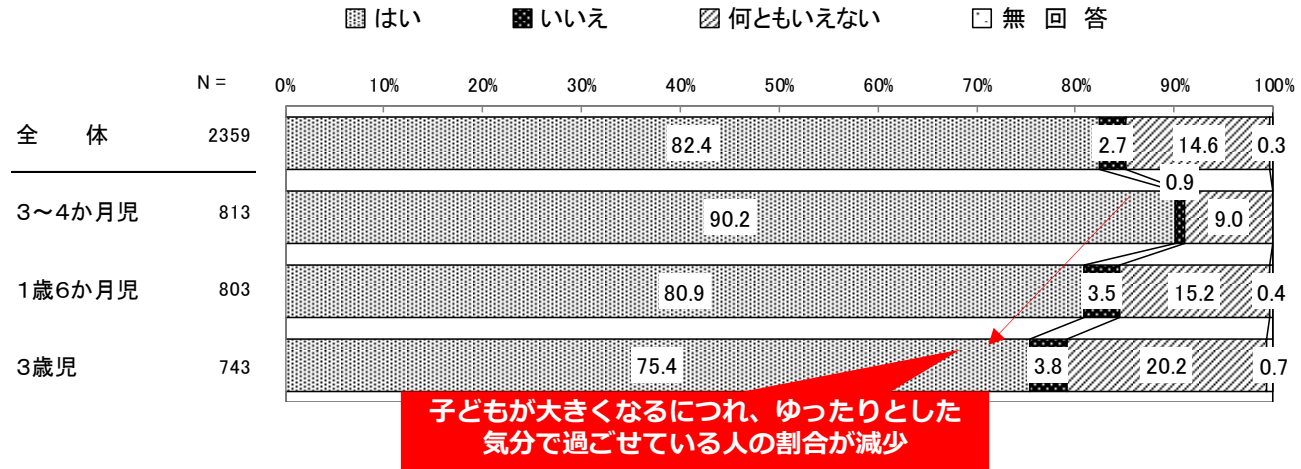
	夫(パートナー)	父	母	義父	義母	兄弟姉妹	友人	その他	無回答	いない
20~24歳	97.1	26.5	61.8	20.6	29.4	26.5	17.6	2.9	2.9	0.0
25~29歳	86.9	40.3	76.3	16.5	31.8	19.5	6.8	0.8	3.8	1.7
30~34歳	85.5	36.4	72.8	11.3	26.7	18.8	6.0	0.7	4.8	1.4
35~39歳	88.2	29.9	69.4	15.6	29.2	17.0	9.4	1.7	5.9	0.7
40歳以上	85.3	18.7	60	8.0	28	17.3	9.3	1.3	9.3	2.7

課題：

▶支援者が夫（パートナー）と実母に集中しており、妊婦の年齢が上がるにつれ、その割合が下がる。

● ゆったりした気分で過ごしている人が8割以上いる反面、育てにくさを感じている人が2割を超えている。父親の育児参加が母親の気持ちに影響がある。

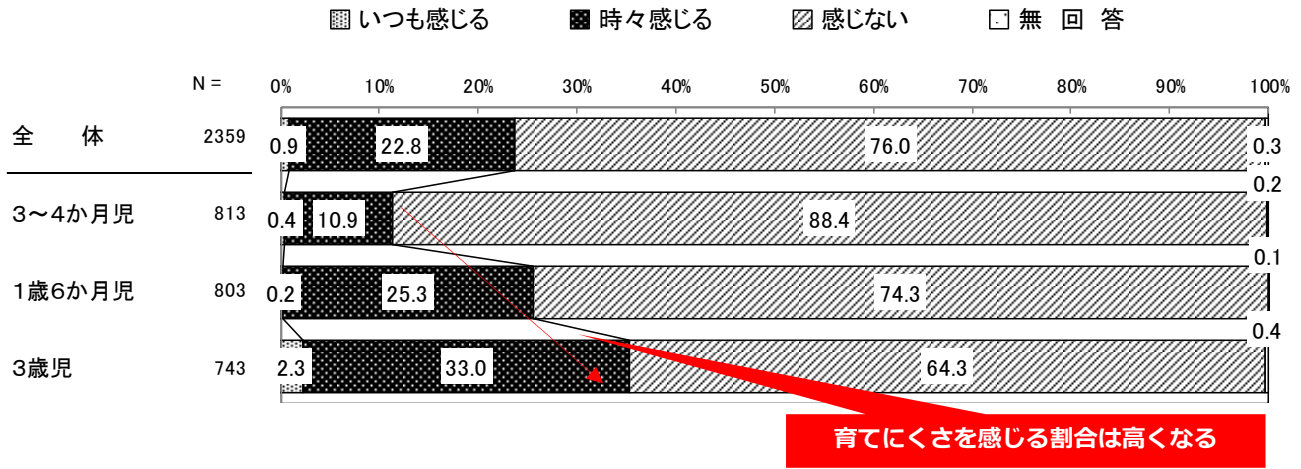
【ゆったりとした気分で過ごせる】



父親の育児参加

	はい	いいえ	何ともいえない	無回答
よくやっている (N=1,361)	86.1	1.8	11.8	0.3
時々やっている (N=814)	80.3	3.1	16.5	0.1
ほとんどしない (N=101)	66.3	9.9	23.8	0.0
何ともいえない (N=51)	58.8	3.9	37.3	0.0

【育てにくさを感じる】



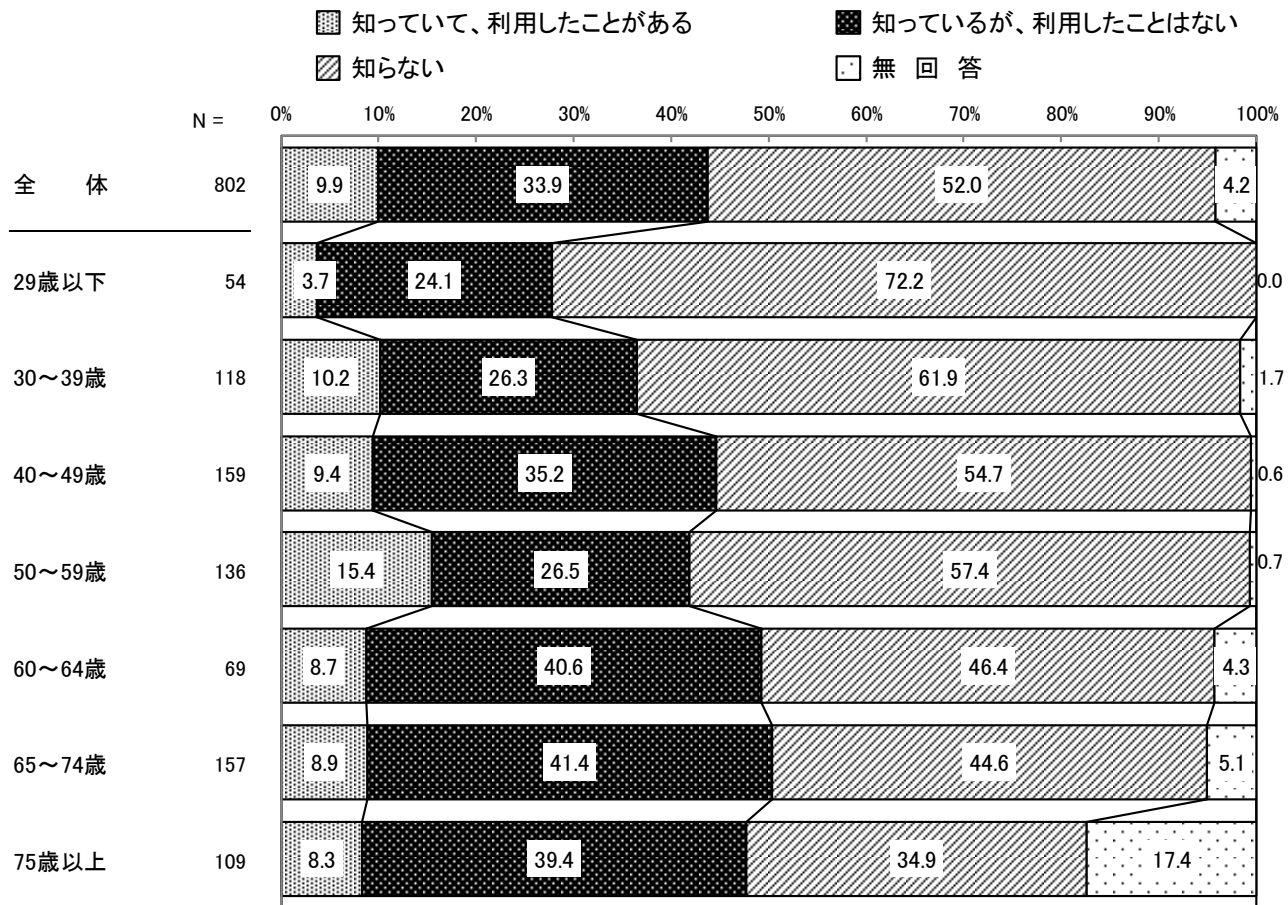
父親の育児参加

	いつも感じる	時々感じる	感じない	無回答
よくやっている (N=1,361)	0.6	19.4	79.9	0.1
時々やっている (N=814)	1.0	26.3	72.6	0.1
ほとんどしない (N=101)	5.0	29.7	65.3	0.0
何ともいえない (N=51)	2.0	37.3	60.8	0.0

●保健センターの全体の認知度は43.8%であるが、29歳以下では27.8%、30歳代で36.5%と低い。

【保健センターの認知率、利用度】

問28 ⑥保健センター(健康課)[%]



●地域での子育ての希望は『そう思う』が9割以上（95.9%）と大半を占めている。

【この地域での子育てを希望するか】

この地域での子育て希望[%]

- そう思う
- ▨ どちらかといえばそう思う
- ▩ どちらかといえばそう思わない
- 無回答
- どちらかといえばそう思う
- ▨ そう思わない

